資料－2

令和8年度　菊池川学識者懇談会

# 河川整備計画内容の点検について

令和8年8月25日

国土交通省九州地方整備局

菊池川河川事務所

## 目次

１）これまでの点検経過・・・・・・・・・・・・P2

２）河川整備計画の概要・・・・・・・・・・・P3

３）社会情勢の変化・・・・・・・・・・・・・・P4

４）河川整備の進捗・実施状況・・・・・P24

５）河川整備計画内容の点検・・・・・・P39

## 1）これまでの点検経過

**平成23年9月　菊池川水系河川整備計画　策定**

河川整備の実施

- 平成26年7月　菊池川学識者懇談会　設置
- 平成26年8月　河川整備計画内容の点検・事業再評価（第1回）
- 平成27・28年度　事業進捗報告
- 平成29年8月　河川整備計画内容の点検・事業再評価（第2回）
- 平成30年度、令和元・2・3年度　事業進捗報告
- 令和4年11月　河川整備計画内容の点検・事業再評価（第3回）
- 令和5・6・7年度　事業進捗報告
- **令和8年8月　河川整備計画内容の点検・事業再評価（第4回）**

社会情勢の変化

河川整備の進捗・実施状況

## 2）河川整備計画の概要

# 整備計画目標

○本計画で定めた以下の治水・利水・環境に関する目標の達成に向け、河川整備を実施する。

## 治　水

○戦後第2位相当となる昭和57年7月洪水等を概ね安全に流下させる整備を行う。

菊池川本川における整備目標の基準地点流量

| 基準地点 | 目標流量 | 洪水調節量 | 河道流量 |
|---|---|---|---|
| 玉名 | 3,700m$^3$/s | 100m$^3$/s | 3,600m$^3$/s |

○その他「堤防安全性確保の対策」や「内水対策」等についても、必要に応じて実施する。




図　河川整備計画（国管理区間）の対象区間

## 利　水

○河川の適正な水利用に関しては、取水実態等の変化を踏まえ、適正な水利用を目指す。

○流水の正常な機能を維持するため必要な流量については、利水の現況、動植物の保護、流水の清潔の保持等を考慮し、山鹿地点において、かんがい期で概ね１６㎥/s、非かんがい期で概ね８㎥/sの確保に努める。

## 環　境

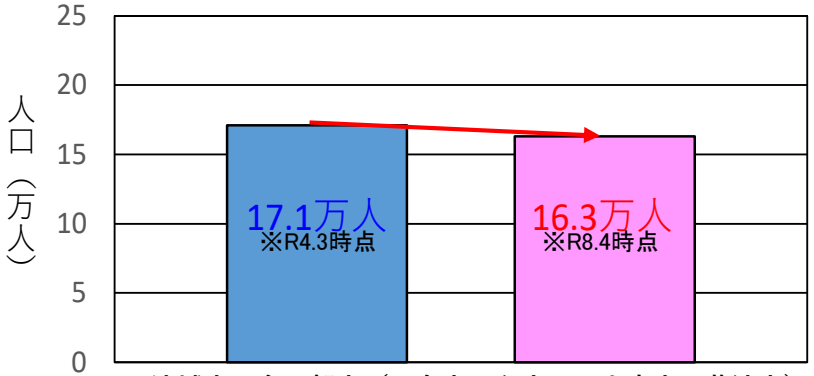
○河川環境の整備と保全に関しては、これまでの流域の人々と菊池川との歴史的・文化的な関わりを踏まえ、菊池川の清らかな流れと豊かな自然が織りなす良好な河川景観の保全に努める。

○重要種であるチスジノリ等をはじめ多様な動植物が生息・生育・繁殖する自然環境を保全・再生するとともに、住民の憩いの場や河川環境学習の場として地域に親しまれる河川空間を創出し、活力のある菊池川を次世代に引き継ぐよう努める。

○水質については、現状の良好な状況を保全することはもとよりさらなる改善を目指し、流域市町をはじめ各組織が行う水質浄化活動との連携を図る。

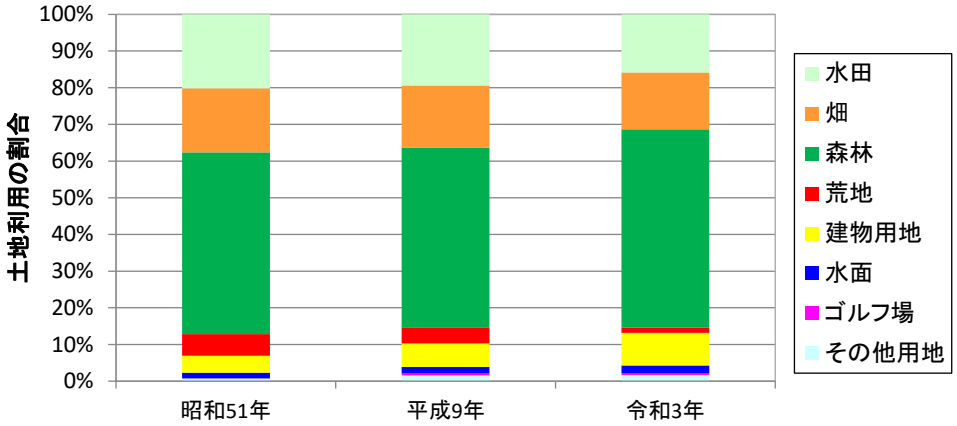
# 3）社会情勢の変化　～流域の人口、土地利用状況等～

○人口は、ほぼ横ばいで推移している。
○流域は山地が多くを占めており、水田及び畑地が盆地及び河川沿い一帯に分布し、玉名・山鹿・菊池等の市街地に人口資産が集中している。
○平成29年4月に、菊池川流域が日本遺産に認定され、流域が一体となった地域活性化に期待されている。




流域市町主要都市（玉名市・和水町・山鹿市・菊池市）

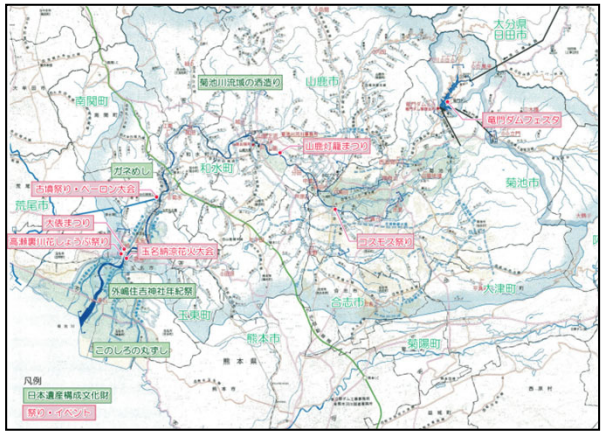
出典：玉名市役所、山鹿市役所、菊池市役所ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞより



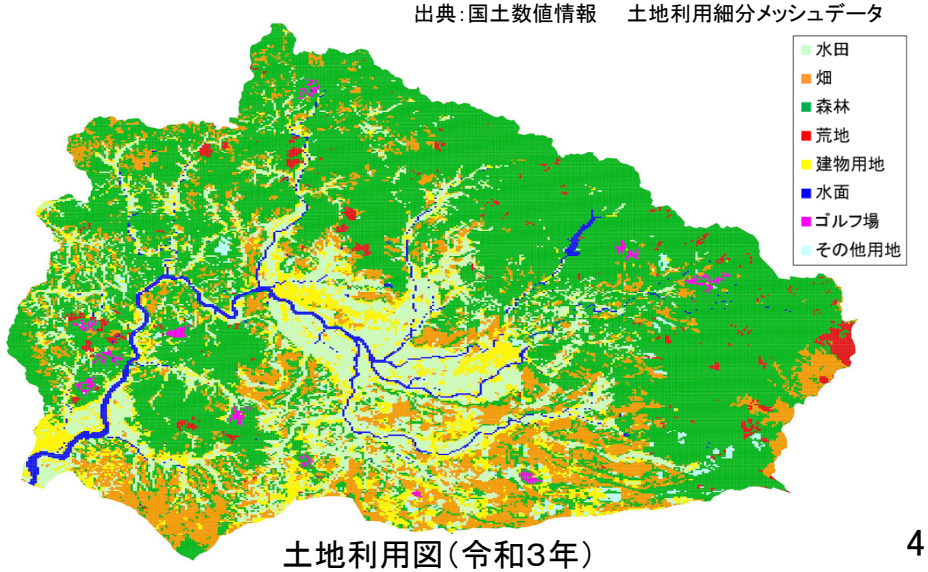

土地利用の経年変化

出典：国土数値情報　土地利用細分メッシュデータ




日本遺産を構成する主な文化財と流域の祭りやイベント




土地利用図（令和3年）

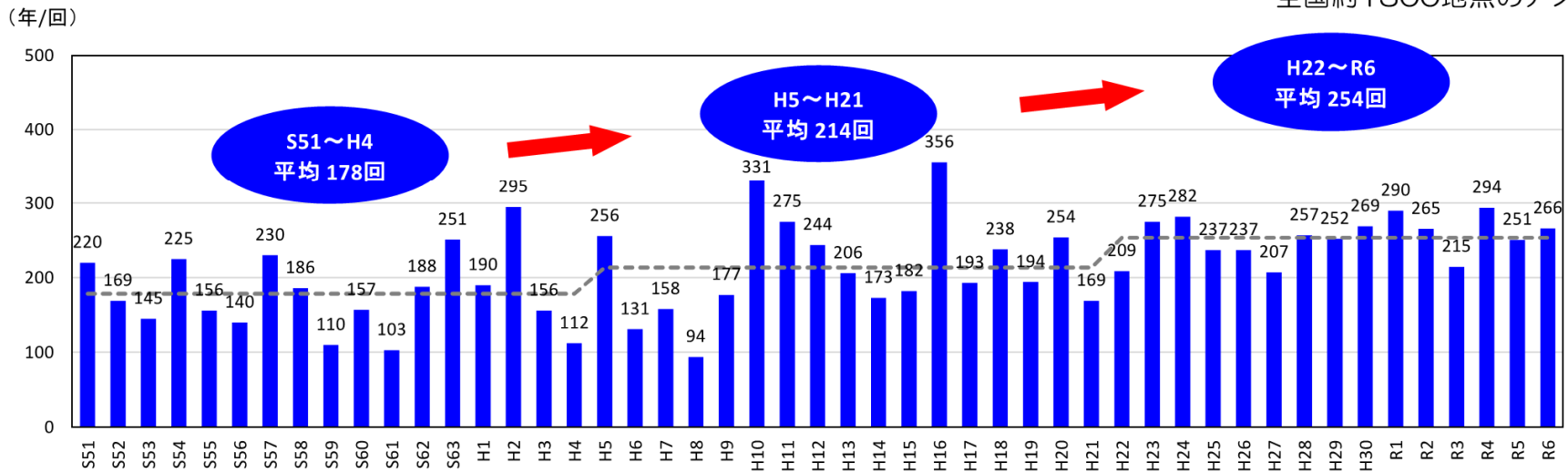
平成29年4月に菊池川流域が日本遺産に認定され、行政、観光協会、農業協同組合、文化財関係団体等からなる「菊池川流域日本遺産協議会」が5月に発足した。菊池川には日本遺産を構成する文化財や河川の親水施設など魅力的な地域資源があり、協議会ではこれらの資源を活かしたまちづくりの推進と地域活性化を目指している。

# 3）社会情勢の変化　～近年の大雨発生状況（全国）～

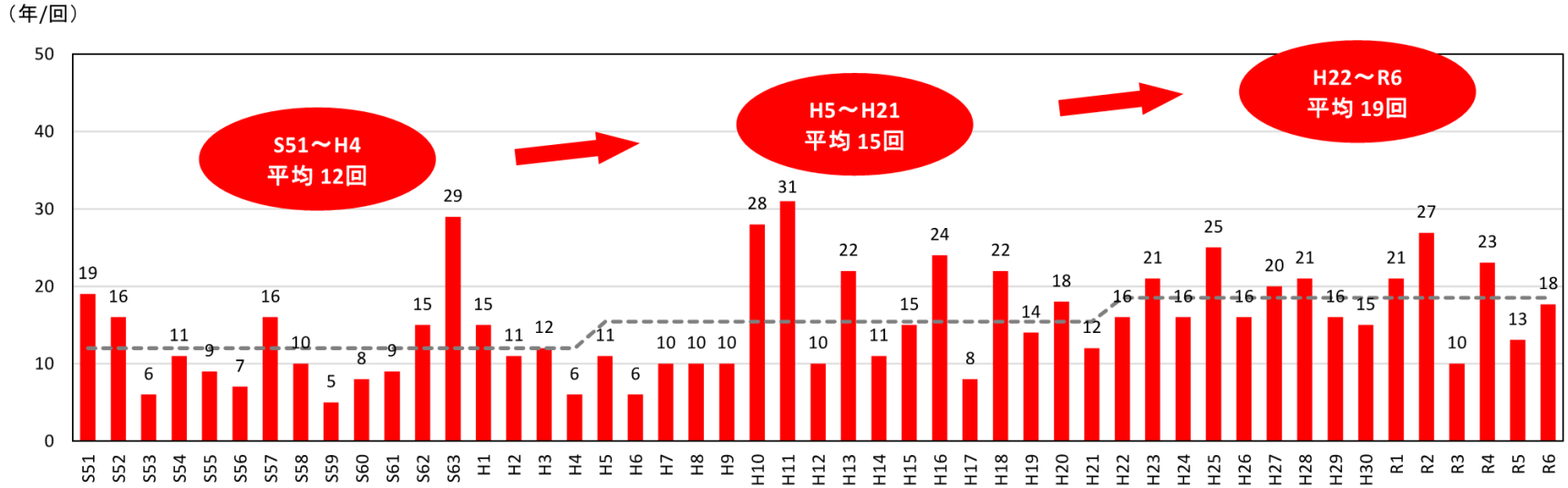
○１時間降水量５０、８０mm以上の年間発生回数は増加しており、水害の頻発・激甚化が懸念される。

資料）気象庁資料より作成
- １時間降水量の年間発生回数
- 全国約1300地点のアメダスより集計

## ◆1時間降水量50mm以上の年間発生回数（1000地点あたり）




## ◆1時間降水量80mm以上の年間発生回数（1000地点あたり）



# 3）社会情勢の変化　～近年の洪水等による災害発生の状況（全国）～

○短時間強雨の発生の増加や台風の大型化等により、近年は浸水被害が頻発しており、既に地球温暖化の影響が顕在化しているとみられる。さらに今後、気候変動による水災害の激甚化・頻発化が予測されている。

**平成25～29年**

①平成25年台風第18号



由良川の氾濫による浸水被害
（京都府福知山市）

②平成27年9月関東・東北豪雨




鬼怒川の堤防決壊による浸水被害
（茨城県常総市）

③平成28年8月台風10号



小本川の氾濫による浸水被害
（岩手県岩泉町）



空知川の堤防決壊による浸水被害
（北海道南富良野町）

④平成29年7月九州北部豪雨



赤谷川における浸水被害
（福岡県朝倉市）

**平成30年～令和2年**

⑤平成30年7月豪雨



小田川における浸水被害
（岡山県倉敷市）



肱川における浸水被害
（愛媛県大洲市）

⑥令和元年東日本台風




千曲川における浸水被害
（長野県長野市）

⑦令和2年7月豪雨



球磨川における浸水被害
（熊本県人吉市）

**令和3年～6年**

⑧令和3年8月の大雨



池町川における浸水被害
（福岡県久留米市）

⑨令和4年8月の大雨




最上川における浸水被害
（山形県大江町）

⑩令和5年7月の大雨




太平川における浸水被害
（秋田県秋田市）

⑪令和6年9月の大雨



河原田川における浸水被害
（石川県輪島市）




※ここに例示したもの以外にも、全国各地震や大雨等による被害が発生

# 3）社会情勢の変化　～水防災意識社会再構築ビジョン～

○平成２７年９月関東・東北豪雨を踏まえ、新たに「水防災意識社会 再構築ビジョン」として、**全ての直轄河川とその沿川の市町村（１０９水系、７３０市町村）において、水防災意識社会を再構築する取組みを行う。**

**〈ソフト対策〉** 住民が自らリスクを察知し主体的に避難できるよう、より実効性のある「住民目線のソフト対策」へ転換し、平成２８年出水期までを目途に重点的に実施。

**〈ハード対策〉** 「洪水氾濫を未然に防ぐ対策」に加え、氾濫が発生した場合にも被害を軽減する「危機管理型ハード対策」を導入し、令和２年度を目途に実施。

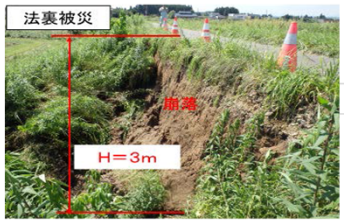
**主な対策**

**各地域において、河川管理者・都道府県・市町村等からなる協議会等を新たに設置して減災のための目標を共有し、ハード・ソフト対策を一体的・計画的に推進する。**

＜危機管理型ハード対策＞

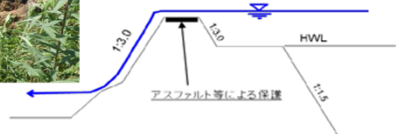
○越水等が発生した場合でも決壊までの時間を 少しでも引き延ばすよう堤防構造を工夫する対策の推進
- いわゆる粘り強い構造の堤防の整備

＜被害軽減を図るための堤防構造の工夫（対策例）＞




天端のアスファルト等が、越水による侵食から堤体を保護
（鳴瀬川水系吉田川、平成27年9月関東・東北豪雨）

横断図




＜洪水氾濫を未然に防ぐ対策＞

○ 優先的に整備が必要な区間において、堤防のかさ上げや浸透対策などを実施

＜住民目線のソフト対策＞

○ 住民等の行動につながるリスク情報の周知
- 立ち退き避難が必要な家屋倒壊等氾濫想定区域等の公表
- 住民のとるべき行動を分かりやすく示した ハザードマップへの改良
- 不動産関連事業者への説明会の開催

○事前の行動計画作成、訓練の促進
- タイムラインの策定

○避難行動のきっかけとなる情報をリアルタイムで提供
- 水位計やライブカメラの設置
- スマホ等によるプッシュ型の洪水予報等の提供

# 3）社会情勢の変化　～水防災意識社会再構築ビジョン（菊池川流域の取り組み）～

〇菊池川流域においては、熊本県北地域の関係機関が協力して減災のための目標を共有し、今後概ね５年間で実施するハード・ソフト整備の取り組みについて「熊本県北地域　災害に強い地域づくり協議会」を平成２８年６月に発足。
〇これまで計１２回実施し、各参画機関から取り組み内容を報告いただいている。
〇各自治体の防災イベントへの参加や、地域住民等を対象とした、防災講習や体験型防災講座を実施。
〇３Ｄ空間・３Ｄ地形に、各種防災情報閲覧機能、参画１０自治体の防災情報、国、県の防災情報へリンク機能を提供。

熊本県北地域の自治体の全体で洪水に備える
「広域連携により災害に強い地域づくり」を目指す。

1. 住民自らが避難行動を取るための迅速かつ的確な防災情報提供と水防災学習・教育の推進、水防活動の取り組み強化
2. 流出形態等が異なる多数の支川・二級河川が流れる特徴を踏まえ各自治体が広域的に連携できるための仕組みづくり及び施設整備
3. 過去の水害を踏まえた災害に強い地域づくりに寄与する着実なハード整備

開催状況
〇平成28年6月28日（協議会の設立）
～令和8年5月18日（協議会　計12回実施）

熊本県北地域　災害に強い地域づくり協議会参画機関
〇九州地方整備局　菊池川河川事務所
〇気象庁　熊本地方気象台
〇熊本県
〇玉名市、山鹿市、菊池市、熊本市、荒尾市、玉東町、和水町、南関町、長洲町、合志市、大津町



熊本県北地域　災害に強い地域づくり協議会（令和8年5月18日）

第12回協議会で報告のあった取り組み例

〇防災の教育・情報提供



令和7年11月　北区こどもまつり
（主催：北区こどもまつり実行委員会）



令和8年5月　防災フェア
（主催：熊本市植木町田底校区）

〇菊池川流域３Ｄ防災マップ




スマート防災ポータル
トップ画面



３D防災マップ



３Dモビリティマップ

・「熊本県菊池川流域3D防災マップ」が「スマート防災ポータル−菊池川流域治水プロジェクト2.0−」に名称変更し、バージョンアップした。

# 3）社会情勢の変化　～流域治水への転換～

○気候変動の影響により当面の目標としている治水安全度が目減りすることを踏まえ、流域治水の取組を加速化・深化させる。
このために必要な取組を反映し「流域治水プロジェクト２．０」に更新する。

## 現状・課題

- 2℃に抑えるシナリオでも2040年頃には降雨量が約1.1倍、流量が1.2倍、洪水発生頻度が2倍になると試算
  現行の河川整備計画が完了したとしても治水安全度は目減り
- グリーンインフラやカーボンニュートラルへの対応
- インフラDX等の技術の進展

## 必要な対応

- 気候変動下においても、目標とする治水安全度を現行の計画と同じ完了時期までに達成する
- あらゆる関係者による、様々な手法を活用した、対策の一層の充実を図り、流域治水協議会等の関係者間で共有する。

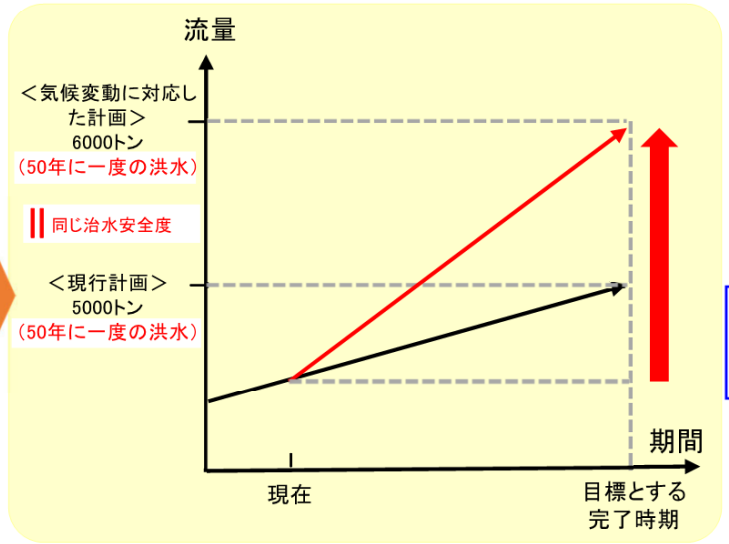
### 必要な対応のイメージ

| 気候変動シナリオ | 降雨量（河川整備の基本とする洪水規模） |
|---|---|
| 2℃上昇 | 約1.1倍 |

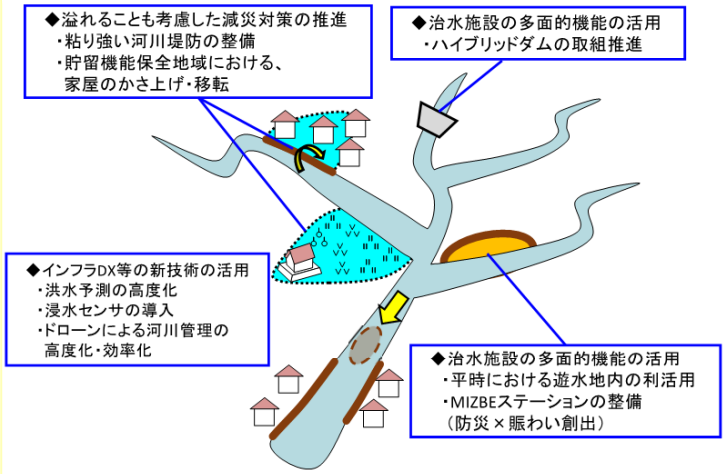
降雨量が約1.1倍となった場合

| 全国の平均的な傾向【試算結果】 | 流量 |
|---|---|
| | 約1.2倍 |

同じ治水安全度を確保するためには、
目標流量を1.2倍に引き上げる必要




### 様々な手法の活用イメージ




※現行の計画と同じ完了時期までに目標とする治水安全度を達成するため、様々な手法を活用し、集中的に整備を進めることが必要

⇒現在の河川整備計画に基づく対策や流域における各取組を推進するとともに、気候変動を踏まえて追加で必要となる対策案の詳細については、更に議論を深めていく。

# 3）社会情勢の変化　～流域治水への転換～

〇気候変動の影響や社会状況の変化などを踏まえ、河川の流域のあらゆる関係者が協働して流域全体で行う治水対策、「流域治水」へ転換。
〇治水計画を「気候変動による降雨量の増加などを考慮したもの」に見直し、集水域と河川区域のみならず、氾濫域も含めて一つの流域として捉え、地域の特性に応じ、①氾濫をできるだけ防ぐ、減らす対策、②被害対象を減少させるための対策、③被害の軽減、早期復旧・復興のための対策をハード・ソフト一体で多層的に進める。

## ①氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

**雨水貯留機能の拡大**　集水域
[県・市、企業、住民]
雨水貯留浸透施設の整備、ため池等の治水利用

**流水の貯留**　河川区域
[国・県・市・利水者]
治水ダムの建設・再生、利水ダム等において貯留水を事前に放流し洪水調節に活用
[国・県・市]
土地利用と一体となった遊水機能の向上

**持続可能な河道の流下能力の維持・向上**
[国・県・市]
河床掘削、引堤、砂防堰堤、雨水排水施設等の整備

**氾濫水を減らす**
[国・県]
「粘り強い堤防」を目指した堤防強化等

## ②被害対象を減少させるための対策

**リスクの低いエリアへ誘導／住まい方の工夫**
[県・市、企業、住民]
土地利用規制、誘導、移転促進、不動産取引時の水害リスク情報提供、金融による誘導の検討

**浸水範囲を減らす**　氾濫域
[国・県・市]
二線堤の整備、自然堤防の保全




## ③被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

**土地のリスク情報の充実**　氾濫域
[国・県]
水害リスク情報の空白地帯解消、多段型水害リスク情報を発信

**避難体制を強化する**
[国・県・市]
長期予測の技術開発、リアルタイム浸水・決壊把握

**経済被害の最小化**
[企業、住民]
工場や建築物の浸水対策、BCPの策定

**住まい方の工夫**
[企業、住民]
不動産取引時の水害リスク情報提供、金融商品を通じた浸水対策の促進

**被災自治体の支援体制充実**
[国・企業]
官民連携によるTEC-FORCEの体制強化

**氾濫水を早く排除する**
[国・県・市等]
排水門等の整備、排水強化

# 3）社会情勢の変化　～菊池川流域治水協議会～

〇菊池川流域において、あらゆる関係者が協働して流域全体で水害を軽減させる治水対策「流域治水」を計画的に推進することを目的として、令和２年９月２８日に菊池川流域治水協議会を発足。
〇令和３年３月に策定した「菊池川水系流域治水プロジェクト」の推進に向けて、菊池川流域治水協議会を開催。


菊池川流域治水協議会（令和８年５月１８日）

菊池川流域治水協議会　開催状況

〇第1回：令和2年9月28日（協議会の設立）
〇第2回：令和3年3月23日（プロジェクトの策定）
〇第3回：令和4年5月27日（実施状況フォローアップ）
〇第4回：令和5年5月29日（実施状況フォローアップ）
〇第5回：令和6年5月27日（実施状況フォローアップ）
〇第6回：令和7年5月23日（実施状況フォローアップ）
〇第7回：令和8年5月18日（実施状況フォローアップ）

菊池川流域治水協議会参画機関

〇九州地方整備局　菊池川河川事務所
〇気象庁　熊本地方気象台
〇農林水産省　林野庁、九州農政局
〇熊本県
〇玉名市、山鹿市、菊池市、熊本市、阿蘇市、合志市、玉東町、和水町、南関町、大津町、菊陽町
〇国立研究開発法人　森林研究・整備機構、森林整備センター

## 【第7回協議会で報告のあった取り組み例】

### 【山鹿市】雨水ポンプ場に冠水監視カメラ及び水位通報装置を設置

・集中豪雨時にポンプ場の水位だけでなく、遠隔地から道路の冠水状況を映像で即座に確認することで、ポンプ起動や運転継続の判断をより的確に行うことができる。
・カメラ映像を周辺住民に公開することで、道路の危険性をリアルタイムで察知し、適切な避難ルートの選択に役立てる。




### 【熊本市】大雨による浸水被害の防止・軽減のため、住宅や事業所等に設置する止水板に対し補助を行う。

・令和7年8月豪雨において、熊本市内では内水氾濫によって戸建住宅、マンション、店舗などで甚大な浸水被害が生じた。想定を超える豪雨の際には、行政によるハード対策では限界があるため、自助の観点で浸水被害を防止・軽減させる対策が求められた。

【対象地域】
・過去に浸水被害があった地域
・ハザードマップや内水浸水想定図で浸水の恐れがある地域

【補助対象】
・戸建住宅・マンション・店舗・事務所など対象となる建物を所有している方、または所有者の同意を得た方
・建物等に止水板を設置する工事及びそれに伴う関連工事
・建物等に設置する止水板であって設置工事を要しないもの購入するもの（市販品に限る）



# 3）社会情勢の変化　～菊池川流域治水協議会～

## 菊池川水系流域治水プロジェクト【位置図】　R6.3更新（2.0策定）～R7.5更新

～日本遺産「菊池川流域の米作り」の保全及び流域市町を水害から守る流域が一体となった防災・減災対策～ R8.5更新

○ 近年各地で大規模な洪水が頻発するなか、菊池川水系においても平成24年7月洪水では越水等による甚大な被害が発生しており、以下の取り組みを一層推進する。国管理区間においては、気候変動（２℃上昇）下でも目標とする治水安全度を維持するため、戦後第2位流量を記録したS57.7洪水に対し２℃上昇時の降雨量増加を考慮した雨量1.1倍となる規模の洪水を、安全に流下させることを目指す。

○ 堤防整備や河道掘削等の事前防災を引き続き推進し、洪水時の急激な水上昇を抑制するために、洪水調節施設の整備による貯留機能の確保を図る。また、流出抑制対策の検討や特定都市河川の指定に向けた検討等、流域市町村が一体となった防災・減災対策を図る。







特定都市河川の指定に向けた検討

森林の整備・保全、治山施設の整備

ハザードマップの周知及び住民の水害リスクに対する理解促進の取組

要配慮者施設における避難確保計画の作成促進と避難の実効性確保

地域の避難体制強化
水害リスク空白域の解消

雨水浸透施設の設置



山鹿市

雨水ポンプ場の更新

竜門ダムにおける事前放流等の実施、体制構築

竜門ダム

水田の貯留機能向上

菰田橋架替

河道掘削

堤防整備

南関町

堤防整備

岩野川

砂防関係施設の整備

菊池市

防災拠点等の整備
（防災広場の整備）

菊池川

山鹿

堰改築

堤防整備

雨水浸透施設（雨水浸透ます、浸透管等）の設置を推進

阿蘇市

河道掘削・樹木伐採

和水町

河道掘削

上内田川

堤防整備

河道掘削

排水ポンプ施設整備

玉名市

河道掘削

中富

迫間川

菊池川

防災情報発信の強化

立地適正化計画の策定
（防災指針の追加を含む）

河道掘削・樹木伐採

堰改築

河道掘削、
護岸工　等

防災拠点等の整備
（高台整備）

堤防整備

防災情報発信の強化

繁根木川

河道掘削

広瀬

河道掘削

砂防関係施設の整備

河道掘削

堤防整備

堤防整備

長洲町

堰改築

防災ステーションの整備

山城堰改築

玉名

合志川

堤防整備

木葉川

河道掘削、築堤、
橋梁改築、堰改築　等

調整池の整備

大津町

ため池の補強・有効活用

熊本市

学校敷地内
貯留機能整備

合志市

河川監視カメラの設置

堤防整備

玉東町

農業水利施設の整備

堤防整備

防災調整池の整備
自然地の保全

開発行為に対する雨水貯留・浸透施設の設置を指導

菊陽町

堤防整備

地区別ハザードマップの作成




防災情報発信の強化




### ■氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

・河道掘削、堤防整備、堰改築、橋梁架替、樹木伐採　等
・排水路、クリーク、ため池等浚渫
・洪水調整施設の検討（遊水地、調整池の整備・検討 等）
・竜門ダムにおける事前放流等の実施、体制構築
（関係者：国、熊本県など）　等
・砂防関係施設の整備
・学校敷地内貯留機能整備（玉名市、阿蘇市）
・開発行為に対する雨水貯留・浸透施設の設置を指導
・雨水浸透施設（雨水浸透ます、浸透管等）の設置を推進
・遊水機能を有する土地の保全
・水田の貯留機能向上
・ため池の補強・有効活用・ため池整備補修
・農業水利施設の整備
・流域流木対策（林野部局との連携強化）
・森林の整備・保全、治山施設の整備
・雨水ポンプ場の更新、排水ポンプ施設整備、排水機場、樋門等整備
補修
・確率降雨強度式の見直し




### ■被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

○国
・防災ステーションの整備
・排水機場の遠隔操作・監視
・洪水予測の高度化
・内外水一体型リスクマップの作成
・三次元管内図の整備
・危機管理型水位計・簡易型河川監視カメラの設置・公表
○国・県・市町村
・水災害対策訓練の強化（山鹿市、玉名市）
・タイムライン等迅速な避難に関する取組（熊本市、玉名市、山鹿市、菊池市、阿蘇市、合志市、玉東町、和水町、南関町、大津町、菊陽町）
○県・市町村
・要配慮者施設における避難確保計画の作成促進と避難の実効性確保
・地域の避難体制強化
・自治体所有の排水ポンプ車整備
・自治体所有の排水ポンプユニット配備等
○熊本県
・水害リスク空白域の解消
・ハザードマップの周知及び住民の水害リスクに対する理解促進の取組
○市町村
・防災メール、防災行政情報伝達システム、防災行政無線の活用
戸別受 信機の設置、スマート防災ポータルの作成など防災情報発信の強化（玉名市）、熊本市、山鹿市、菊池市、合志市、玉東町、和水町、南関町、大津町、菊陽町）・地区別ハザードマップの作成（玉名市、合志市、南関町）
・内水リスク情報の公表（熊本市、玉名市、山鹿市、菊池市、和水町）
・ため池ハザードマップの作成（玉名市、山鹿市、和水町）
・ワンコイン浸水センサの設置
※今後、関係機関と連携し対策検討

### ■被害対象を減少させるための対策

・防災拠点等の整備（高台整備、防災広場の整備等）（玉名市）
・土砂災害警戒区域等の指定による土砂災害リスク情報の充実化
・立地適正化計画の策定・運用（防災指針の追加を含む）
（熊本市、玉名市、菊池市）
・立地適正化計画策定の推進（防災指針の追加を含む）（山鹿市）
・土砂災害特別警戒区域からの移転促進（山鹿市、熊本市）
・止水板設置に対する補助金交付（熊本市）
※今後、関係機関と連携し対策検討

※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。
※流域治水プロジェクト2.0で新たに追加した対策については、今後河川整備計画の過程でより具体的な対策内容を検討する。

# 3）社会情勢の変化　～菊池川流域治水協議会～

## 菊池川水系流域治水プロジェクト【流域治水の具体的な取組】

～日本遺産「菊池川流域の米作り」の保全及び流域市町を水害から守る流域が一体となった防災・減災対策～

- 戦後最大洪水等に対応した河川の整備（見込）
  - 整備率：83%
  - （概ね5か年後）
- 農地・農業用施設の活用
  - 4市町村
  - （令和7年度末時点）
- 流出抑制対策の実施
  - 0施設
  - （令和6年度実施分）
- 山地の保水機能向上および土砂・流木災害対策
  - 治山対策等の実施箇所　5箇所（令和7年度実施分）
  - 砂防関連施設の整備数　0施設（令和7年度完成分）
  - ※施行中　9施設
- 立地適正化計画における防災指針の作成
  - 2市町村
  - （令和7年12月末時点）
- 避難のためのハザード情報の整備
  - 洪水浸水想定区域　70河川（令和8年3月末時点）
  - 内水浸水想定区域　5団体（令和8年3月末時点）
- 高齢者等避難の実効性の確保
  - 避難確保計画　洪水　土砂　137施設（令和7年9月末時点）
  - 個別避難計画　8市町村（令和5年1月1日時点）

### 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

洪水氾濫対策（横断工作物の対策）




橋梁架替、河道掘削 等（菊池川：菰田橋）

菊池川中流部では、菰田橋(県道玉名立花線)付近が狭窄部となっていることから、河道の流下能力向上のため、河道掘削と併せ、橋梁架替を実施している。

令和5年度までに新橋の下部工（A1, P1,A2,P2）が完了し、上部工及び取付道路を施工中。

新橋完成後、旧橋撤去及び狭窄部の河道掘削を実施予定。

実施主体：国

### 被害対象を減少させるための対策

防災拠点整備




整備イメージ（災害時）

国・玉名市では、洪水時の水防活動や緊急復旧活動を行う拠点として、菊池川流域で初となる「河川防災ステーション」の整備を行っている。

本整備は、国により水防時に必要な備蓄資材（土砂、コンクリートブロック等）の整備や緊急時のヘリポート整備を行うとともに、玉名市により水防センターを設置する等、主に水害時の活動拠点となる基盤・施設整備を行うものである。

実施主体：玉名市、国

### 被害の軽減、早期の復旧・復興のための対策

防災まち歩き地域ワーキングの実施




防災まち歩き地域ワーキングの実施状況

山鹿市・玉名市・菊池市では、流域治水の取組の一貫として、住民や関係自治体で、指定避難所までのルートを危険な箇所や気づきについて対話しながら歩く「防災まち歩き地域ワーキング」を開催した。

今後も地域の皆様に避難の重要性等を再認識してもらい、「早め早めの避難を」、空振りでも「何もなくて良かった」と皆様に言ってもらえるよう、流域内で同様のワーキングを開催予定。

実施主体：山鹿市、玉名市、菊池市、熊本県、国

# 3）社会情勢の変化　～菊池川流域治水協議会～

## 「防災まち歩き地域ワーキング」について

〇流域治水の取組の一貫として、住民や関係自治体で、指定避難所までのルートを危険な箇所や気づきについて対話しながら歩く「防災まち歩き　地域ワーキング」を開催した。
〇今後も地域の皆様に避難の重要性等を再認識してもらい、「早め早めの避難を！」、空振りでも「何もなくて良かった！」と皆様に言ってもらえるよう、流域内で同様のワーキングを開催予定。
〇このような機会を活用し、「流域治水」に関する意見も伺うことを考えている。

### ■実施概要

＜山鹿市宗方地区＞
日時：令和6年6月9日（日）
場所：恵荘～宗方公民館
参加者：山鹿市宗方地区24名
　　山鹿市（警察・消防含む）、
　　熊本県、菊池川河川事務所

＜玉名市松木地区＞
日時：令和6年11月17日（日）
場所：浄化センター～松木公民館
参加者：玉名市松木地区14名
　　玉名市、熊本県、
　　菊池川河川事務所

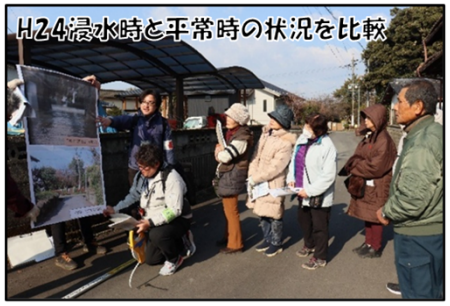
＜菊池市上赤星地区＞
日時：令和8年1月25日（日）
場所：戸崎支館
参加者：菊池市上赤星地区23名
　　菊池市、熊本県、
　　菊池川河川事務所

### ■意見交換



### ■実施状況

＜菊池市上赤星地区＞







＜玉名市松木地区＞




＜山鹿市宗方地区＞




### ■ニュースレターの配布




### ■TV報道







**今後も流域治水の一環として、流域内で実施していければと考えておりますので、実施の希望等ありましたら、是非お声かけをお願いいたします。**

# 3）社会情勢の変化　～菊池川流域治水協議会～

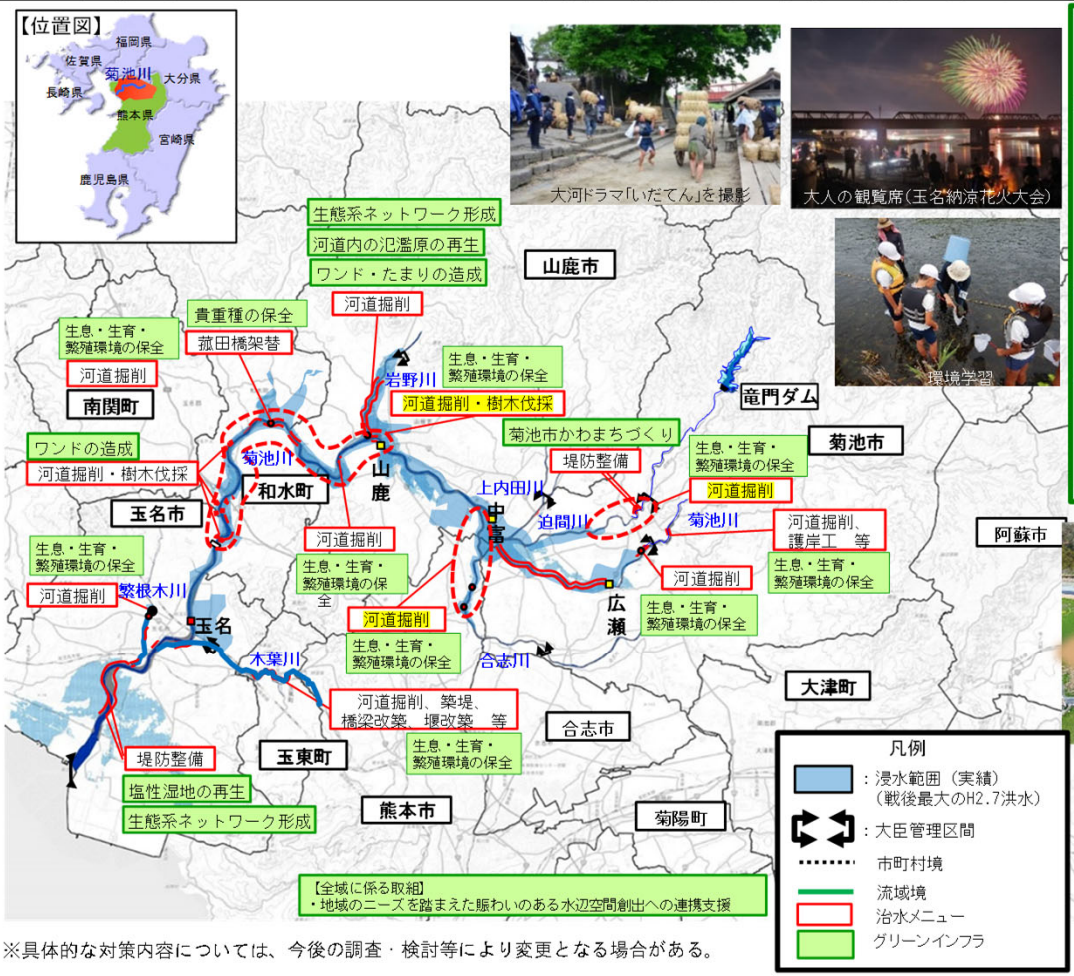
## 菊池川水系流域治水プロジェクト【位置図】

～日本遺産「菊池川流域の米作り」の保全及び流域市町を水害から守る流域が一体となった防災・減災対策～

**●グリーンインフラの取組　　『地域と一体となった魅力ある水辺空間の創出と生物の多様な生息環境の保全』**

○ 日本遺産に認定された菊池川流域は稲作が盛んなほか、山鹿温泉をはじめ流域内に数多くの温泉地が点在するなど豊かな観光資源に恵まれている。さらに、阿蘇くじゅう国立公園、金峰山県立自然公園、小岱県立自然公園等の３つの自然公園をはじめ鳥獣保護区域等にも指定されており、豊かな自然環境に恵まれている。

○ 菊池市は「癒やしの里きくち」の実現として令和3年5月にSDGｓ未来都市として2023年に住民幸福度を80%に引き上げることを目標に計画を策定しており、菊池市かわまちづくりを進めるなど、自然環境が有する多様な機能を活かすグリーンインフラの取組を推進する。





大河ドラマ「いだてん」を撮影


大人の観覧席（玉名納涼花火大会）


環境学習

- **生物の多様な生息・生育環境の創出による生態系ネットワークの形成**
  掘削箇所や樋管整備箇所と既設水路との生態系ネットワークの形成
- **治水対策における多自然川づくり**
  - ワンド、たまりの造成
  - 塩性湿地再生
  - 河道内の氾濫原の再生
  - 生息・生育・繁殖環境の保全
  - 貴重種の保全
- **魅力ある水辺空間・賑わい創出**
  菊池市かわまちづくり
- **自然環境が有する多様な機能活用の取組み**
  - 河川協力団体との連携による環境・防災啓発活動
  - 小学校などにおける河川環境学習








ワークショップ（隈府地区）


学生とのワークショップ

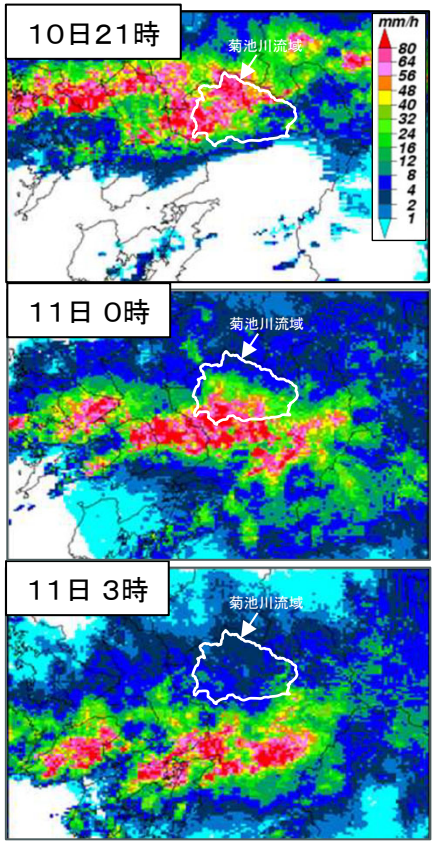
※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

# 3）社会情勢の変化　～令和7年8月豪雨における出水（菊池川流域の降雨）～

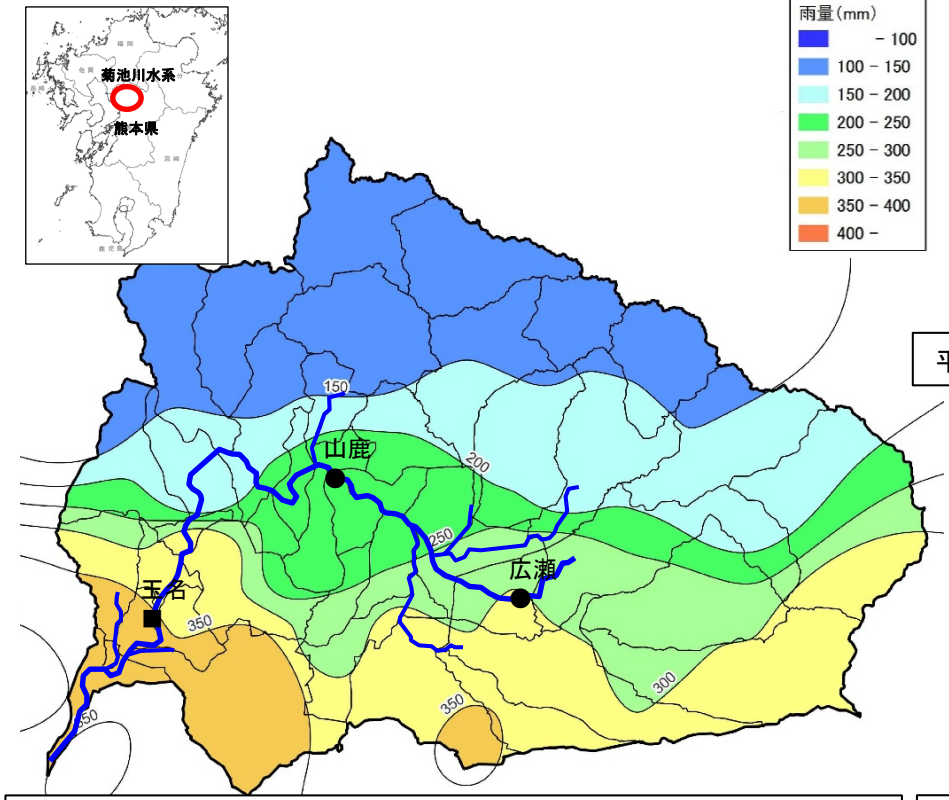
気象概要 | 令和7年8月豪雨 | 菊池川水系

〇熊本県では、１０日から１１日にかけて、熊本地方と天草・芦北地方に線状降水帯が発生し、同じ場所で猛烈な雨や非常に激しい雨が降り続き、菊池川流域内の玉名市をはじめとした県内８市町村で大雨特別警報が発表された。
〇菊池川流域では、昭和５５年８月３０日洪水及び平成２４年７月１２日洪水のような、南側での降雨量が多くなる傾向の雨となった。

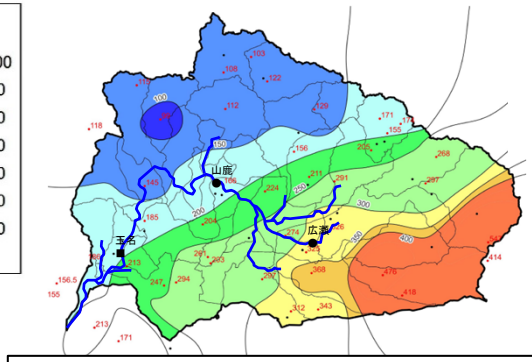
## ■降雨履歴



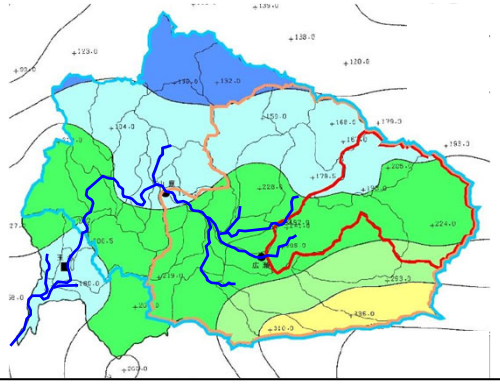

## ■累加雨量




R７．８．１０　２１：００～８．１１　８：００までの１２時間雨量




平成２４年７月１２日洪水（１２時間雨量）



昭和５５年８月３０日洪水（１２時間雨量）

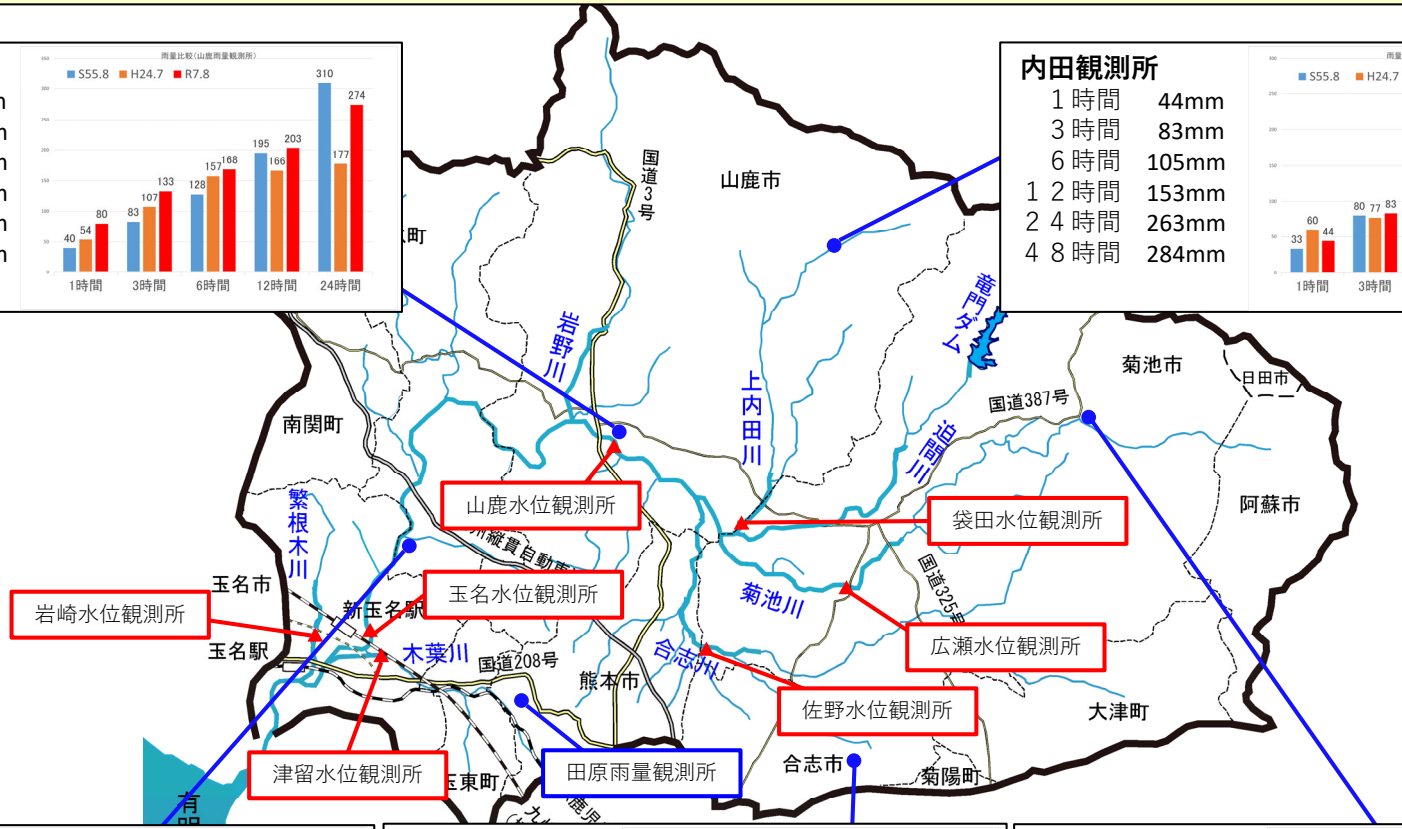
※本資料の数値は、速報値及び暫定値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。

※各等雨量線図は玉名地点の流域平均雨量が最大となる期間で作成。

# 3）社会情勢の変化　～令和7年8月豪雨における出水（菊池川流域の降雨）～

出水概要 | 令和7年8月豪雨 | 菊池川水系

○流域内の各雨量観測所における各時間雨量においても、昭和５５年８月３０日洪水及び平成２４年７月１２日洪水と概ね同等の降雨量が観測された。



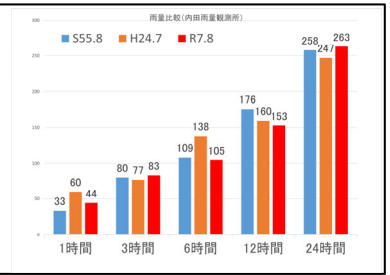

**山鹿観測所**

| | |
|---|---|
| 1時間 | 80mm |
| 3時間 | 133mm |
| 6時間 | 168mm |
| 12時間 | 203mm |
| 24時間 | 274mm |
| 48時間 | 280mm |



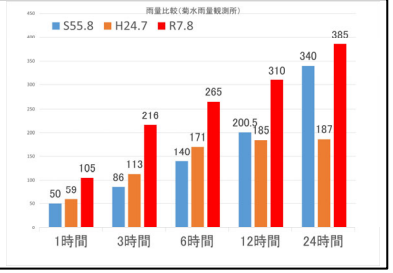

**内田観測所**

| | |
|---|---|
| 1時間 | 44mm |
| 3時間 | 83mm |
| 6時間 | 105mm |
| 12時間 | 153mm |
| 24時間 | 263mm |
| 48時間 | 284mm |



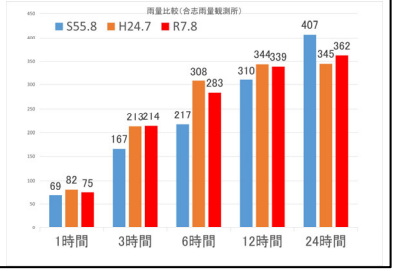

**菊水観測所**

| | |
|---|---|
| 1時間 | 105mm |
| 3時間 | 216mm |
| 6時間 | 265mm |
| 12時間 | 310mm |
| 24時間 | 385mm |
| 48時間 | 392mm |



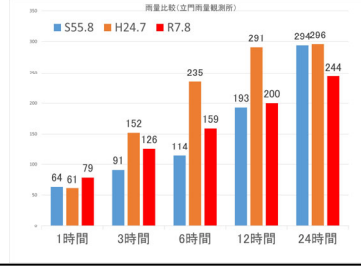

**合志観測所**

| | |
|---|---|
| 1時間 | 75mm |
| 3時間 | 214mm |
| 6時間 | 283mm |
| 12時間 | 339mm |
| 24時間 | 362mm |
| 48時間 | 363mm |




**立門観測所**

| | |
|---|---|
| 1時間 | 79mm |
| 3時間 | 126mm |
| 6時間 | 159mm |
| 12時間 | 200mm |
| 24時間 | 244mm |
| 48時間 | 249mm |




※本資料の数値は、速報値及び暫定値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。

# 3）社会情勢の変化　～令和7年8月豪雨における出水（菊池川流域の降雨）～

出水概要　令和7年8月豪雨　　菊池川水系

○８月１０日～１１日の降雨では、佐野観測所（計１観測所）で計画高水位、広瀬観測所、岩崎観測所、袋田観測所（計３観測所）で避難判断水位、玉名観測所、山鹿観測所、津留観測所（計３観測所）で氾濫注意水位を超過した。

| 河川名 | 観測所 | 2025（R8）8.10–11出水 | 水防団待機水位 | はん濫注意水位 | 避難判断水位 | はん濫危険水位 | 計画高水位 | はん濫発生 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | ピーク水位・時刻 | レベル1 | レベル2 | レベル3 | レベル4 | ― | レベル5 |
| 菊池川 | 玉名 | 5.47m 8月11日　4:10 | 3.50 | 4.40 | 5.50 | 5.90 | 7.17 | 堤防決壊や越水が発生 |
| | 山鹿 | 5.27m 8月11日　1:40 | 3.20 | 4.00 | 5.90 | 6.30 | 6.76 | |
| | 広瀬 | 3.35m 8月11日　0:00 | 1.50 | 2.70 | 3.00 | 3.90 | 4.45 | |
| 繁根木川 | 岩崎 | 1.63m 8月11日　0:00 | 1.00 | 1.40 | 1.50 | 1.70 | 2.23 | |
| 木葉川 | 津留 | 4.58m 8月11日　3:20 | 3.50 | 4.40 | 5.10 | 5.60 | 5.84 | |
| 岩野川 | 城 | 2.74m 8月10日　22:30 | 2.50 | 3.00 | 3.60 | 4.60 | 4.66 | |
| 合志川 | 佐野 | 3.67m 8月11日　0:20 | 2.00 | 2.70 | 2.80 | 3.10 | 3.30 | |
| 迫間川 | 隈府 | 0.46m 8月10日　22:20 | 1.00 | 1.50 | 1.60 | 1.90 | 2.02 | |
| 上内田川 | 袋田 | 3.36m 8月11日　1:00 | 1.50 | 2.60 | 3.20 | 3.90 | 5.62 | |

※本資料の数値は、速報値及び暫定値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。

# 3）社会情勢の変化　～河川改修による治水効果（菊池川水系合志川）～

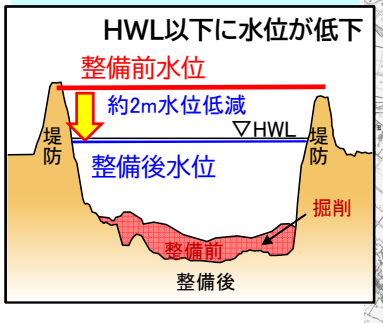
○令和7年8月7日（木）から8月11日（月）にかけて、九州地方で広く大雨となり、菊池川水系合志川流域内の合志雨量観測所（熊本県合志市）において、24時間雨量362mmを記録。
○合志川では、**「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」**、**「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」**などにより、**山城堰及び平島堰の改築や河道掘削（約44万$m^3$）等を集中的に実施**し、これらの整備により、平島堰地点（5k400付近）で**約2mの水位低減効果を発揮**。
○仮に、**これらの河川整備が無かった場合は越水していたことが想定**され、降雨量が同程度であった平成24年7月出水（浸水戸数：103戸）と同様に**多くの浸水被害が発生していた可能性**がある。

◆整備効果（洪水時の河川水位低減）

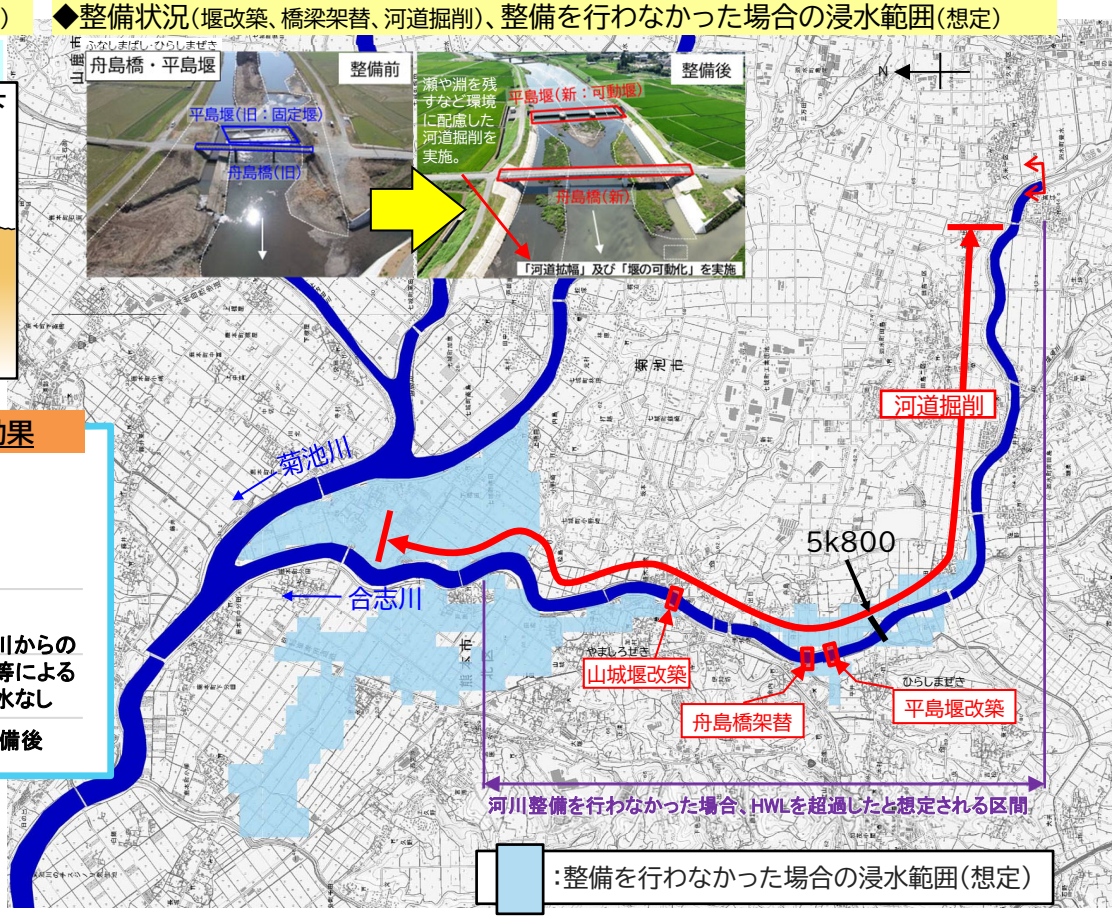
位置図



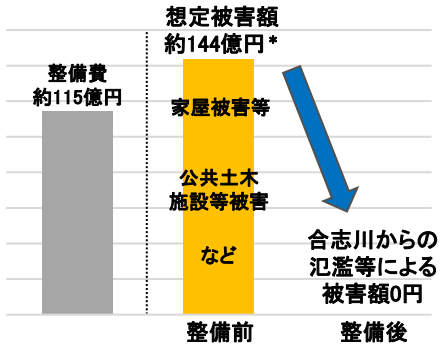

5k800付近横断イメージ図




◆整備状況（堰改築、橋梁架替、河道掘削）、整備を行わなかった場合の浸水範囲（想定）

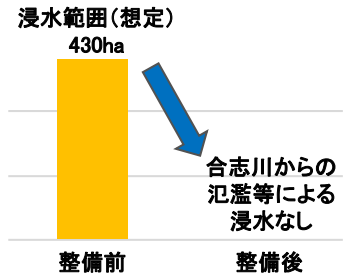



**約144億円の被害軽減効果**




＊この他、災害廃棄物の処理費等の費用が生じる

**浸水被害の軽減効果**




※本資料の数値は今後の調査結果等で変わる可能性があります。

## 3）社会情勢の変化　～流域治水の取り組み（繁根木川 特定都市河川指定の検討）～

〇繁根木川において、下流部は市街地が密接しており、河道拡幅等の河川整備によるリスク軽減が困難な状況等から特定都市河川指定に向けた検討を進めている。
〇流域治水の推進、特定都市河川指定の検討のため、関係者（熊本県・玉名市 関係部署）と流域の課題やその対策等に関する意見交換会を実施している。

**●特定都市河川の指定によってできるようになること**

① 流域開発による雨水流出量を今以上に増やさない
② 雨水の貯留・浸透対策の進捗により、雨水の流出量を減らす
③ 貯留機能があるエリアを今後も保全する
④ 浸水エリアに土地利用規制を適用するなど、危険なエリアには住ませない・安全な場所に移転する等の対策を講じる




繁根木川下流部沿川の市街地密接状況



意見交換会実施状況



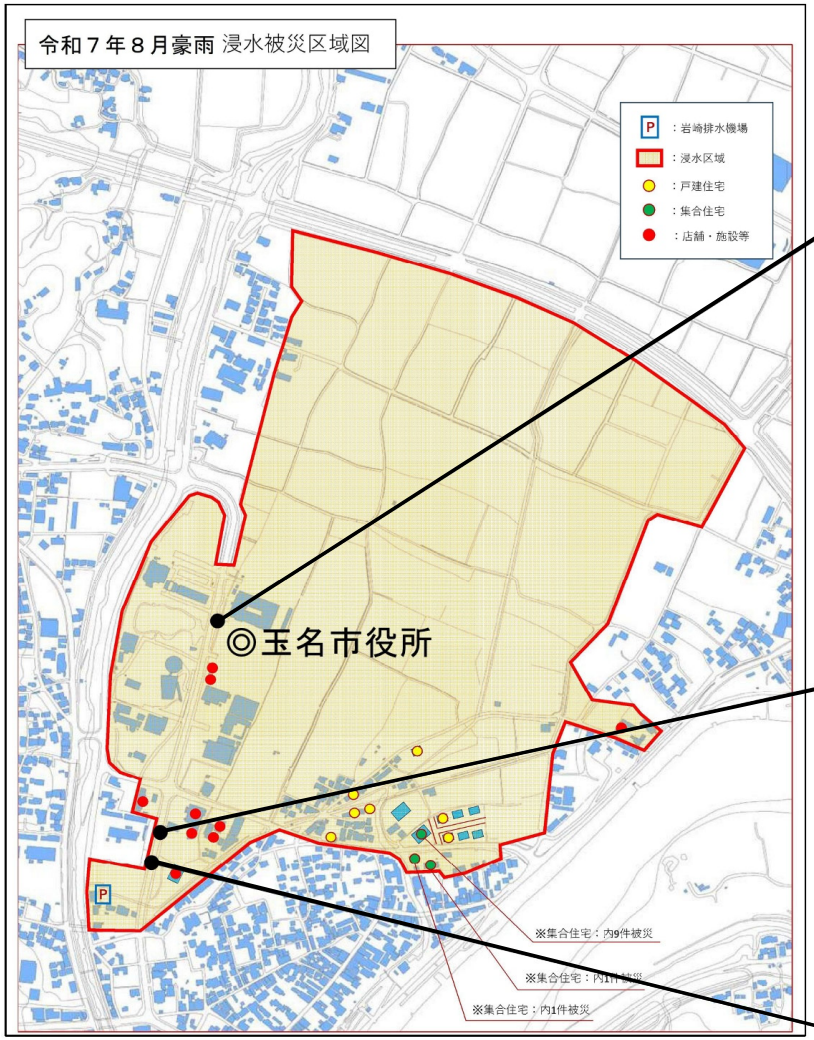
合同現地調査・意見交換会実施状況（R6.6.6：R6第1回）



意見交換会実施状況（R8.6.25：R8第1回）

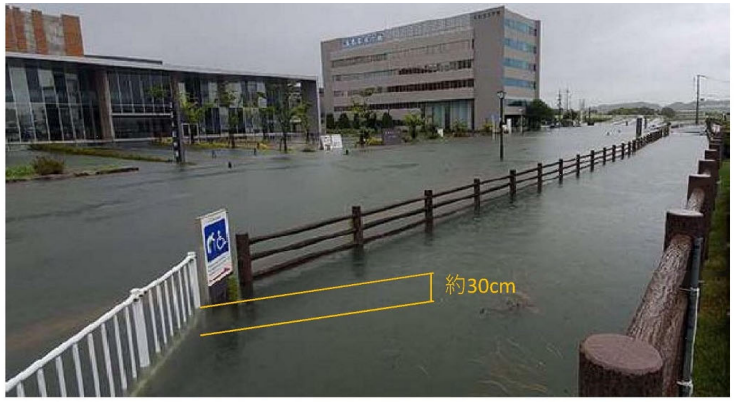
# 3）社会情勢の変化　～流域治水の取り組み（繁根木川 特定都市河川指定の検討）～

【浸水被害の概要】
〇令和７年８月豪雨において、玉名市役所周辺では、内水により床上・床下の浸水被害が発生した。




出典：玉名市提供資料

国庁舎（合同庁舎）・玉名市役所前道路（至：県道寺田岱明線）




スーパーマーケット周辺道路及び近隣駐車場

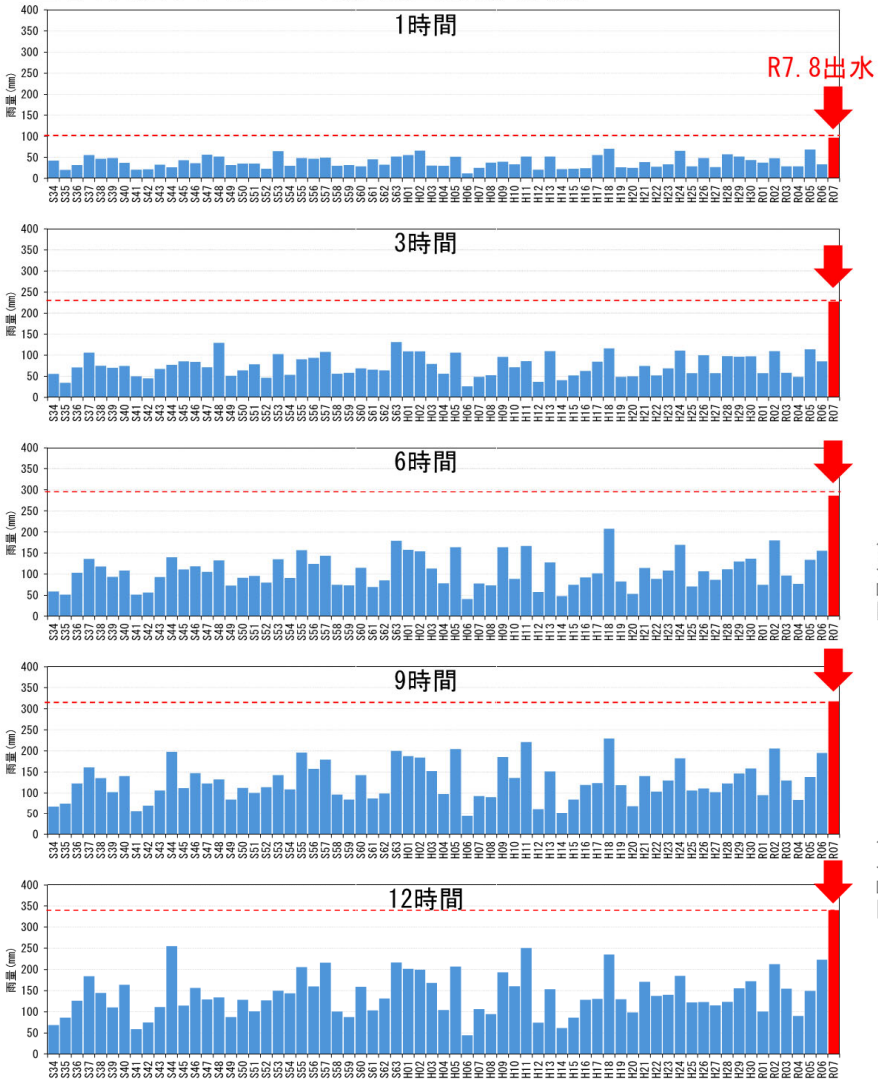





# 3）社会情勢の変化　～流域治水の取り組み（繁根木川 特定都市河川指定の検討）～

【降雨の形状】
〇玉名市周辺における令和７年８月豪雨の３時間～９時間雨量規模は既往出水（Ｒ６以前）と比較して大きい傾向。
〇近年で浸水被害（内水）の生じた令和３年８月出水と比較し、短時間に降雨が集中している傾向。

玉名市周辺の平均雨量　年最大雨量(継続時間別)

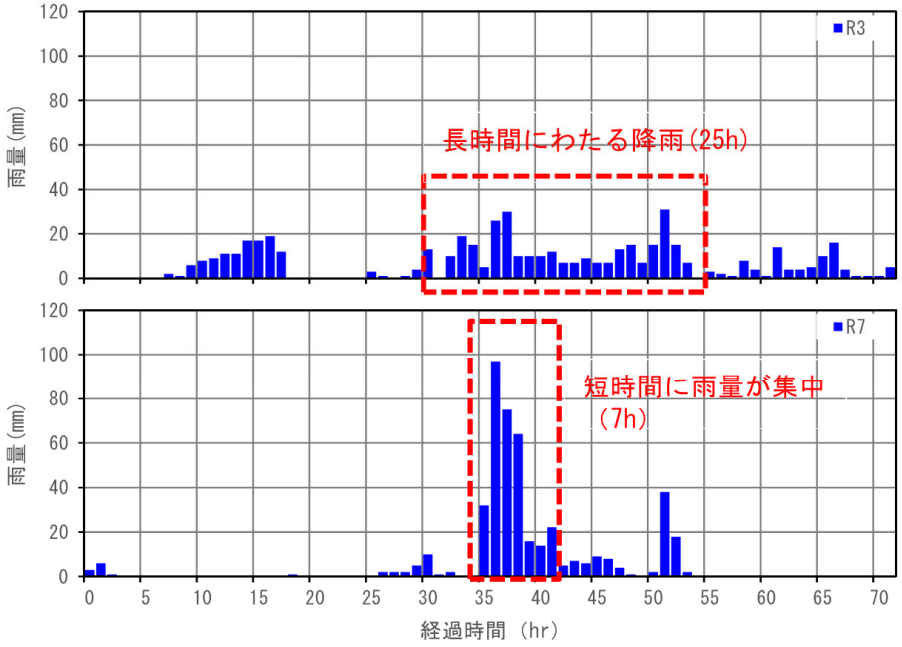



確率雨量算定結果

| | 玉名市周辺 | | | | 繁根木（県）観測所 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 統計期間 | S34 ～ R7 | | | | H4 ～ R7 | | | |
| 継続時間 | R7 | | R3 | | R7 | | R3 | |
| | 実績雨量(mm) | 確率規模 | 実績雨量(mm) | 確率規模 | 実績雨量(mm) | 確率規模 | 実績雨量(mm) | 確率規模 |
| 1時間 | 96.7 | 1/200 | 28.4 | 1/2 | 97 | 1/60 | 35 | 1/2 |
| 3時間 | 227.7 | 1/1000 | 58.3 | 1/2 | 236 | 1/200 | 70 | 1/2 |
| 6時間 | 286.6 | 1/500以上 | 96.6 | 1/2 | 304 | 1/150 | 121 | 1/3 |
| 9時間 | 317.9 | 1/400 | 129.7 | 1/3 | 322 | 1/70 | 145 | 1/3 |
| 12時間 | 340.6 | 1/200 | 154.5 | 1/3 | 343 | 1/70 | 188 | 1/5 |

玉名市周辺の平均雨量では、継続時間3時間～9時間の雨量規模が極めて大きい

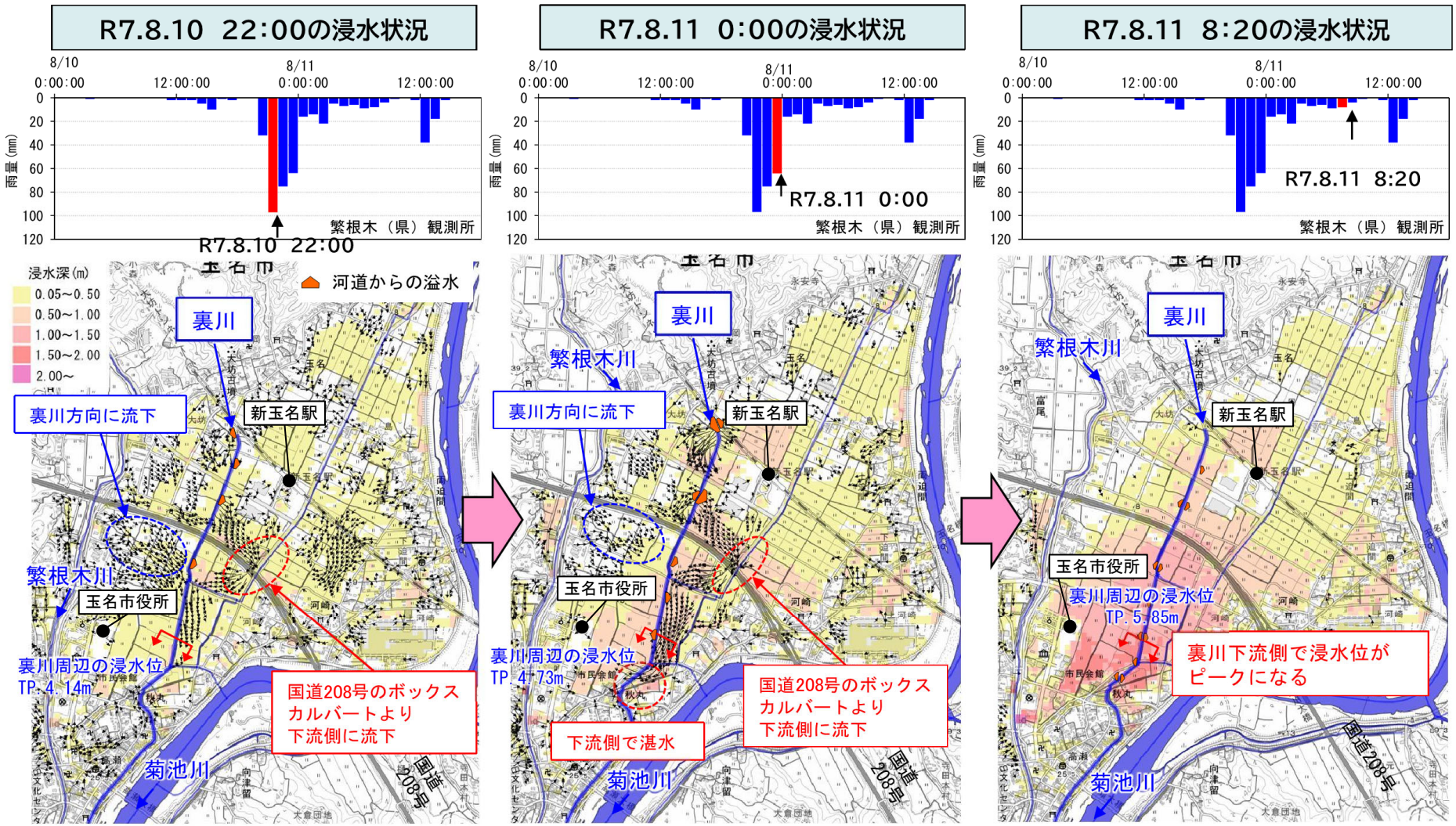
繁根木(県)観測所　観測雨量(上:R3.8出水、下:R7.8出水)



# 3）社会情勢の変化　～流域治水の取り組み（繁根木川 特定都市河川指定の検討）～

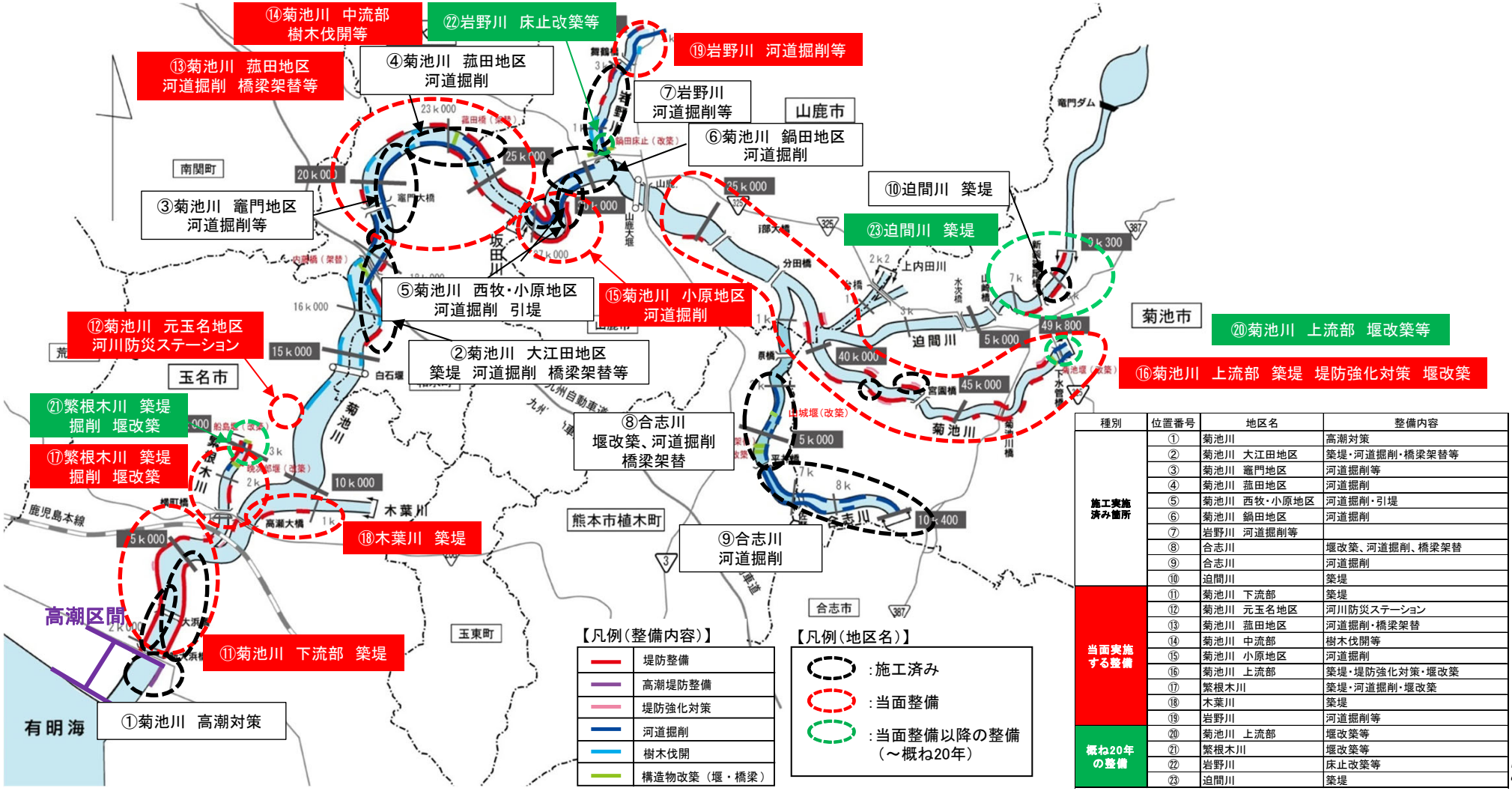
【浸水要因の分析】
〇令和７年８月豪雨では、菊池川や繁根木川からの外水氾濫は発生していない。
〇分析の結果、短時間に集中的に降った雨と、裏川の複数個所から溢水した氾濫流が下流に流下し、裏川下流の地盤が低い箇所に湛水したものと想定される。

R7.8豪雨における時系列浸水深図



# 4）河川整備の進捗・実施状況＜河川改修事業＞

○当面実施する整備（５年程度：令和８年度から令和１２年度予定）　※施工年度は変更する場合があります。
・菊池川において、河川整備計画目標流量（昭和５７年７月洪水と同規模）の洪水を安全に流下させるため、菊池川、繁根木川、木葉川、岩野川、迫間川で築堤・河道掘削、樹木伐採等を実施する。
○河川整備計画対応（令和１３年度以降～）　※施工年度は変更する場合があります。
・菊池川、繁根木川、岩野川、迫間川の築堤、堰改築等を実施する。

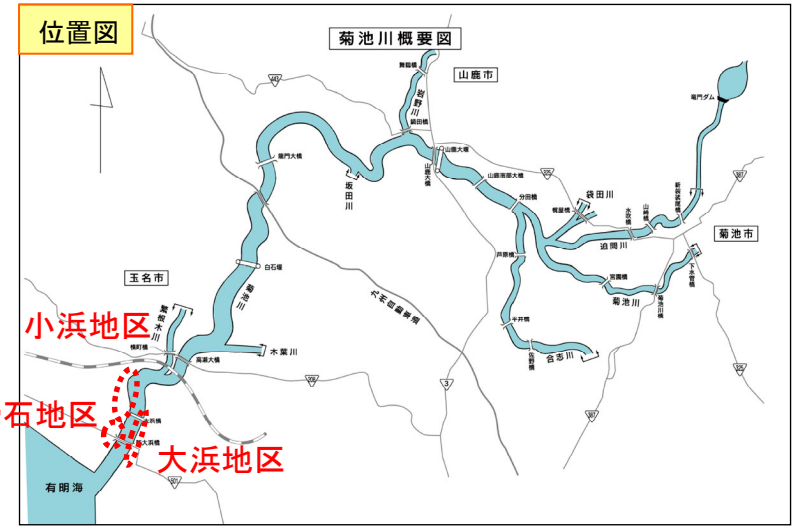



| 種別 | 位置番号 | 地区名 | 整備内容 |
|---|---|---|---|
| 施工実施済み箇所 | ① | 菊池川 | 高潮対策 |
| | ② | 菊池川　大江田地区 | 築堤・河道掘削・橋梁架替等 |
| | ③ | 菊池川　竈門地区 | 河道掘削等 |
| | ④ | 菊池川　菰田地区 | 河道掘削 |
| | ⑤ | 菊池川　西牧・小原地区 | 河道掘削・引堤 |
| | ⑥ | 菊池川　鍋田地区 | 河道掘削 |
| | ⑦ | 岩野川　河道掘削等 | |
| | ⑧ | 合志川 | 堰改築、河道掘削、橋梁架替 |
| | ⑨ | 合志川 | 河道掘削 |
| | ⑩ | 迫間川 | 築堤 |
| 当面実施する整備 | ⑪ | 菊池川　下流部 | 築堤 |
| | ⑫ | 菊池川　元玉名地区 | 河川防災ステーション |
| | ⑬ | 菊池川　菰田地区 | 河道掘削・橋梁架替 |
| | ⑭ | 菊池川　中流部 | 樹木伐開等 |
| | ⑮ | 菊池川　小原地区 | 河道掘削 |
| | ⑯ | 菊池川　上流部 | 築堤・堤防強化対策・堰改築 |
| | ⑰ | 繁根木川 | 築堤・河道掘削・堰改築 |
| | ⑱ | 木葉川 | 築堤 |
| | ⑲ | 岩野川 | 河道掘削等 |
| 概ね20年の整備 | ⑳ | 菊池川　上流部 | 堰改築等 |
| | ㉑ | 繁根木川 | 堰改築等 |
| | ㉒ | 岩野川 | 床止改築等 |
| | ㉓ | 迫間川 | 築堤 |

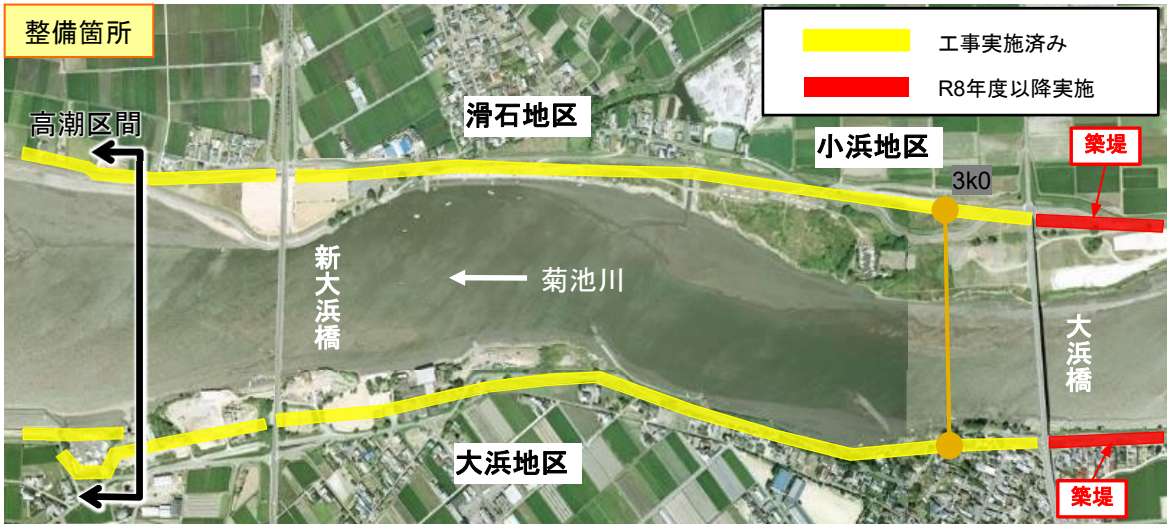
# 4）河川整備の進捗・実施状況＜築堤（菊池川下流部　大浜地区、滑石・小浜地区）＞

〇堤防の高さ・幅が不足しており、洪水に対しての安全性が確保されていないため、堤防整備を実施し、高潮区間を含めた大浜橋下流は完了している。
〇令和８年度以降に、大浜橋より上流の大浜、小浜地区の築堤を実施予定。

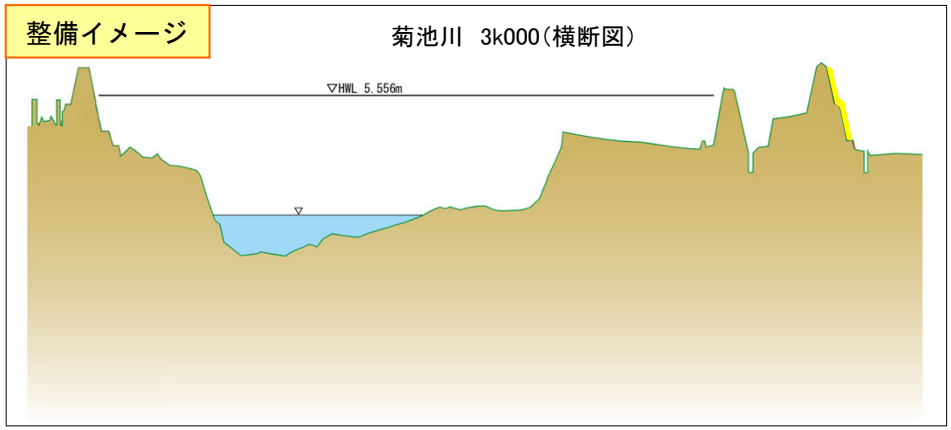
位置図



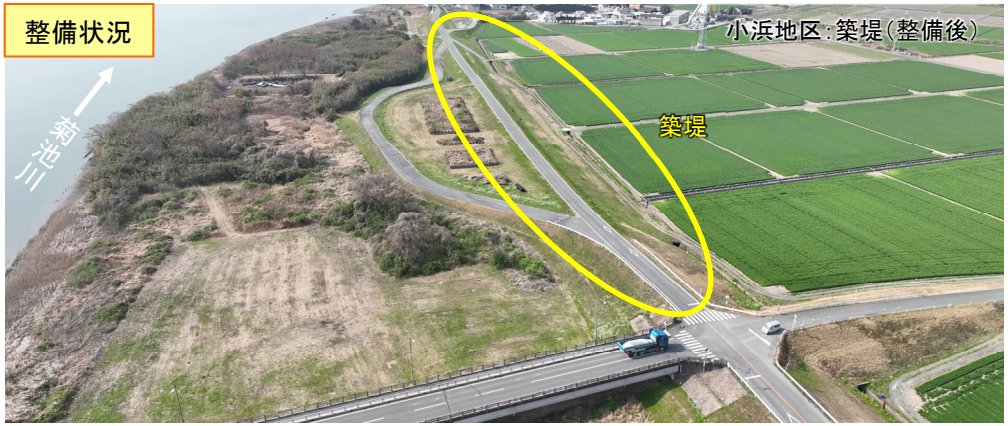

整備箇所




整備イメージ



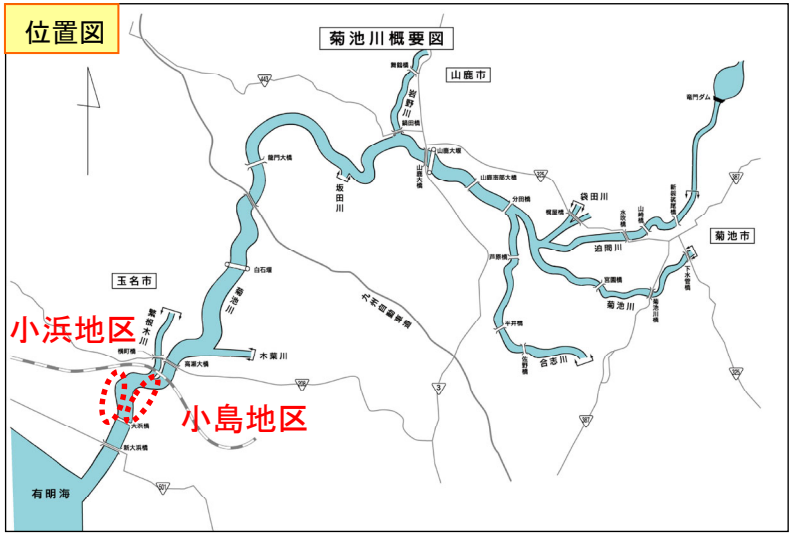

整備状況



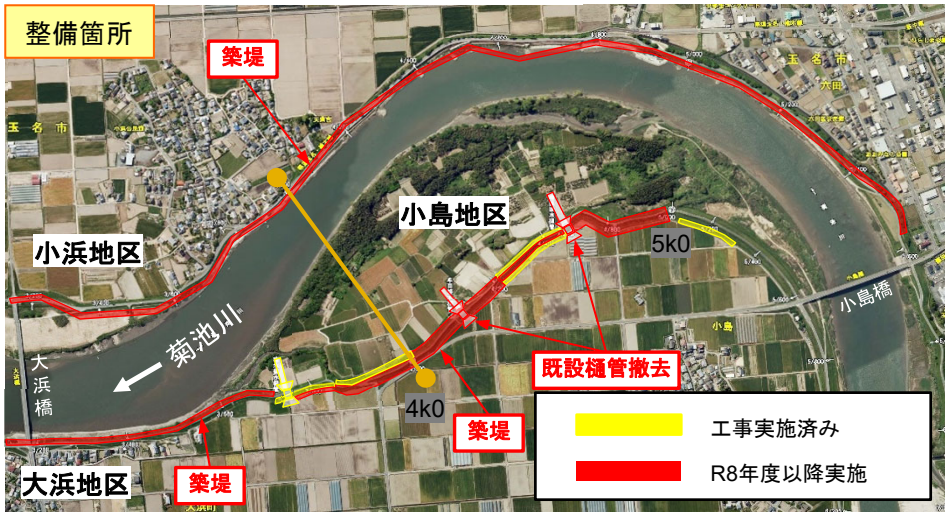
# 4）河川整備の進捗・実施状況＜築堤・樋管統廃合（菊池川下流部　大浜・小島地区、小浜地区）＞

〇堤防の高さ・幅が不足しており、洪水に対しての安全性が確保されていないため、堤防整備を実施している。
〇令和8年度以降に、小島、小浜地区の築堤等を実施予定。

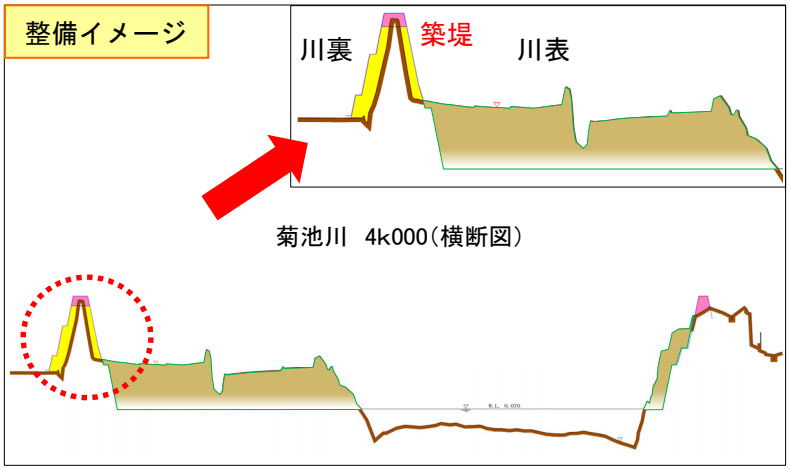
位置図




整備箇所




整備イメージ



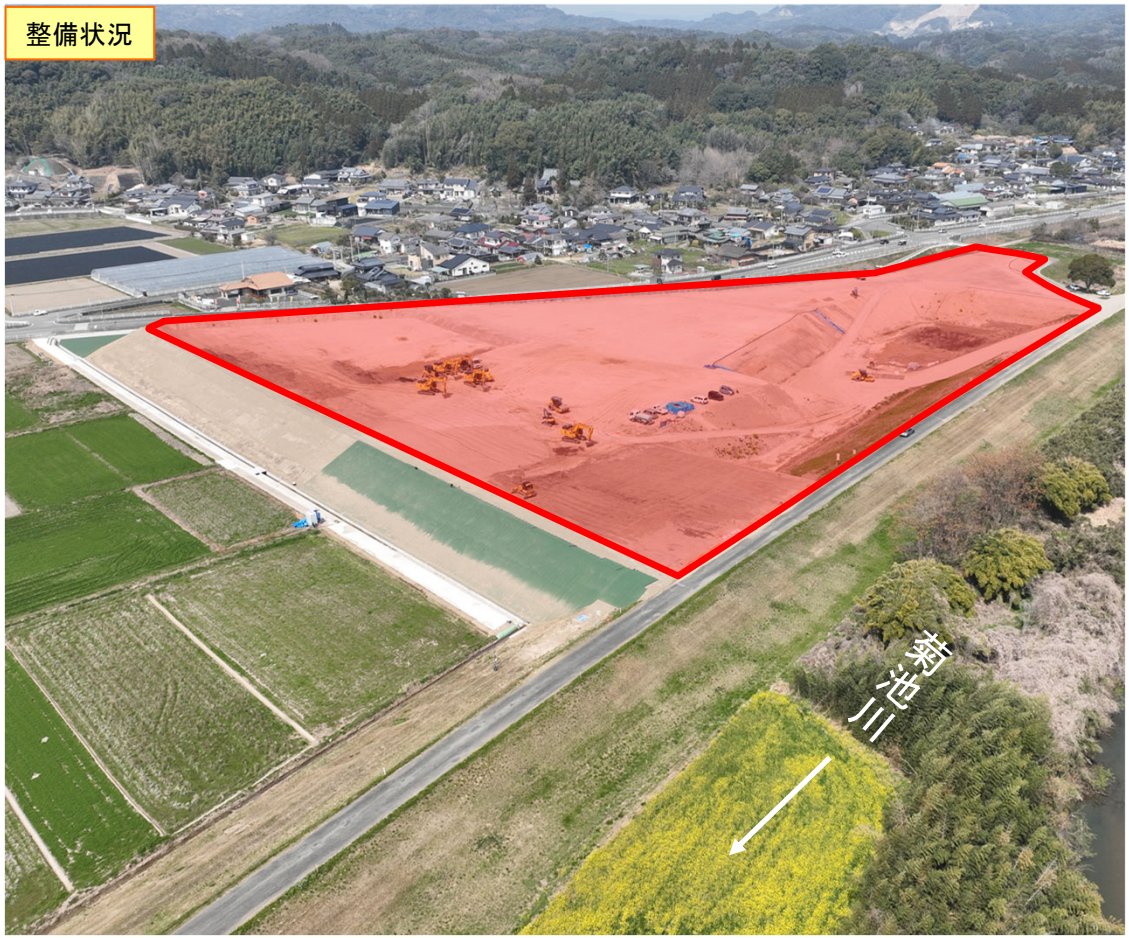

整備状況



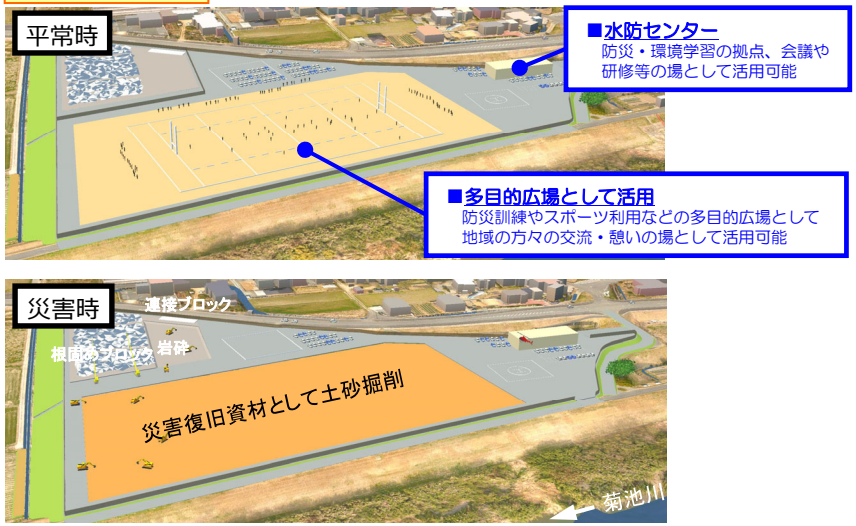
# 4）河川整備の進捗・実施状況＜河川防災ステーション（元玉名地区）＞

○菊池川流域で初となる防災ステーションの整備を計画し、令和4年3月25日付けで登録承認され、令和4年度より　用地協議等事業に着手。
○本整備は、国により水防時に必要な備蓄資材（土砂、コンクリートブロック等）の整備や緊急時のヘリポート整備を行うとともに、玉名市により水防センターを設置する等、主に水害時の活動拠点となる基盤・施設整備を行うものである。
○また、平常時においては多目的広場として、防災啓発活動の場や地域交流スペース等、多目的な利活用を予定。

整備状況




整備イメージ




事業工程表
【令和８年４月末時点】

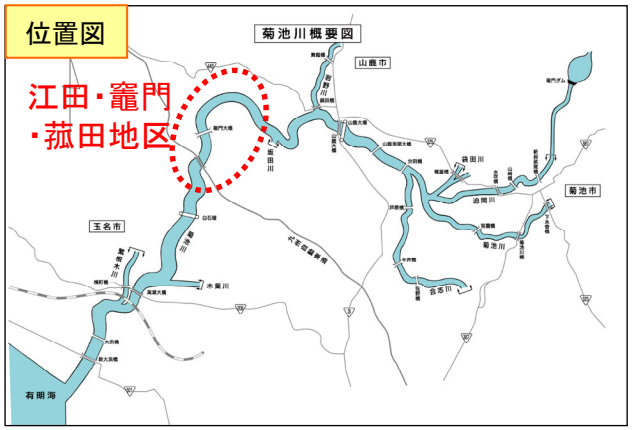
| | | R4年度 | R5年度 | R6年度 | R7年度 | R8年度 | R9年度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 国交省 | 用地協議・取得 | | | | | | |
| | 基盤整備（盛土等） | | | | | | |
| | 水防備蓄資材製作等 | | | | | | |
| 玉名市 | 水防センター多目的広場利活用計画検討 | | | | | | |
| 防災ステーション運用開始 | | | | | | | |

実施：
予定：

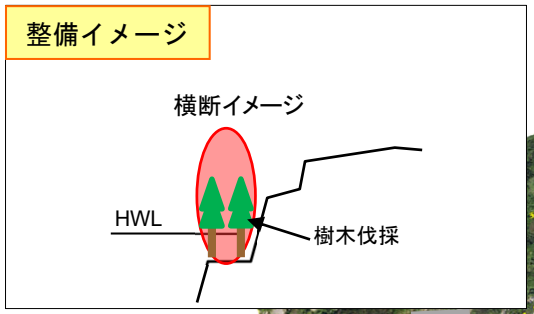
# 4）河川整備の進捗・実施状況＜河道掘削、樹木伐採（菊池川中流部　江田・竈門・菰田地区）＞

〇流下能力向上のため、河道掘削・樹木伐採を実施している。
〇令和8年度以降も引き続き、河道掘削、樹木伐採等を実施予定。

位置図




整備イメージ




整備箇所




整備状況

【R7年度実施状況】



〔施工前〕

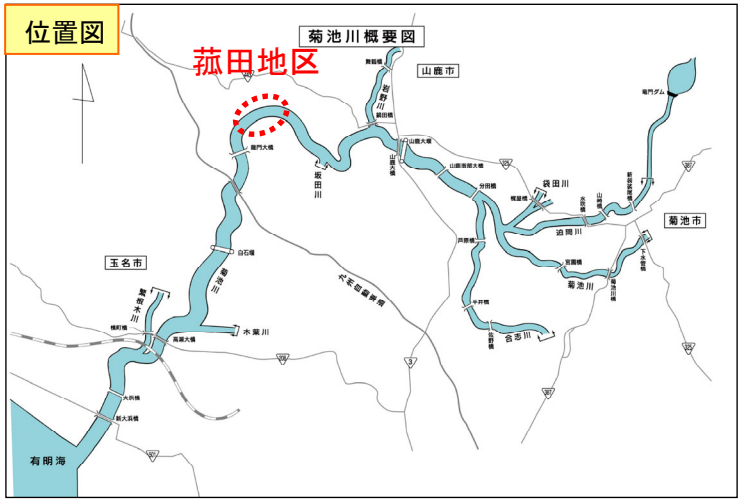


〔施工後〕

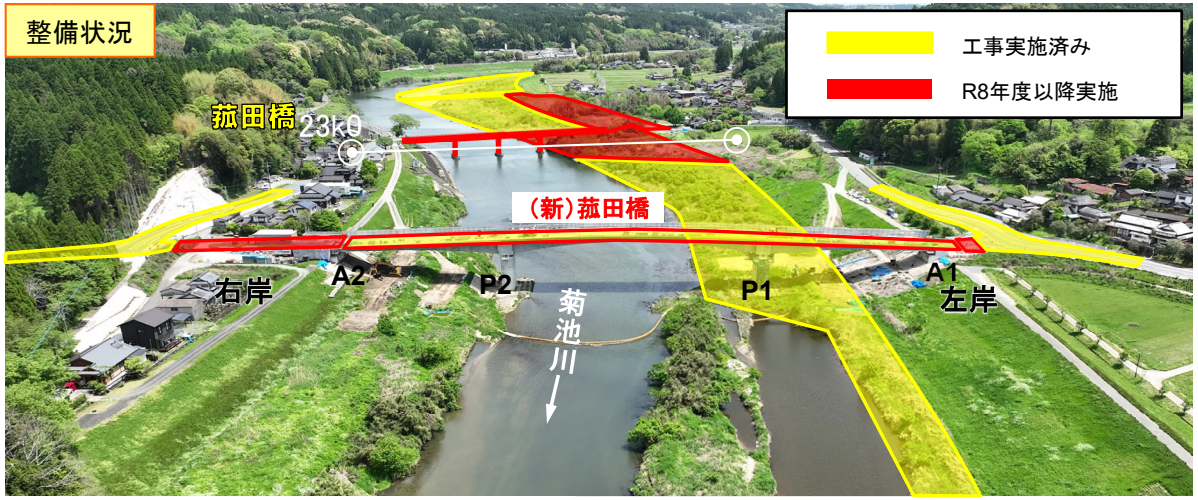
# 4）河川整備の進捗・実施状況＜橋梁架替（菊池川中流部　菰田地区）1/2＞

〇流下能力向上のため、橋梁架替を実施している。
〇令和8年度以降も引き続き実施し、新橋完成後、現菰田橋を撤去予定。

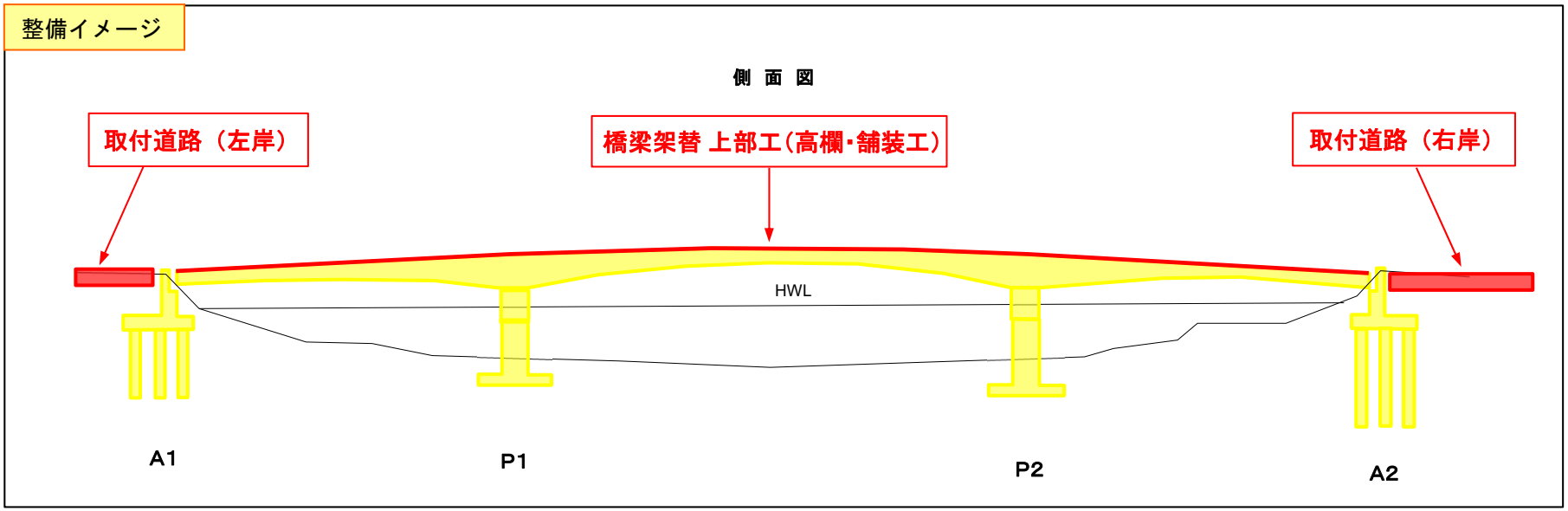
位置図



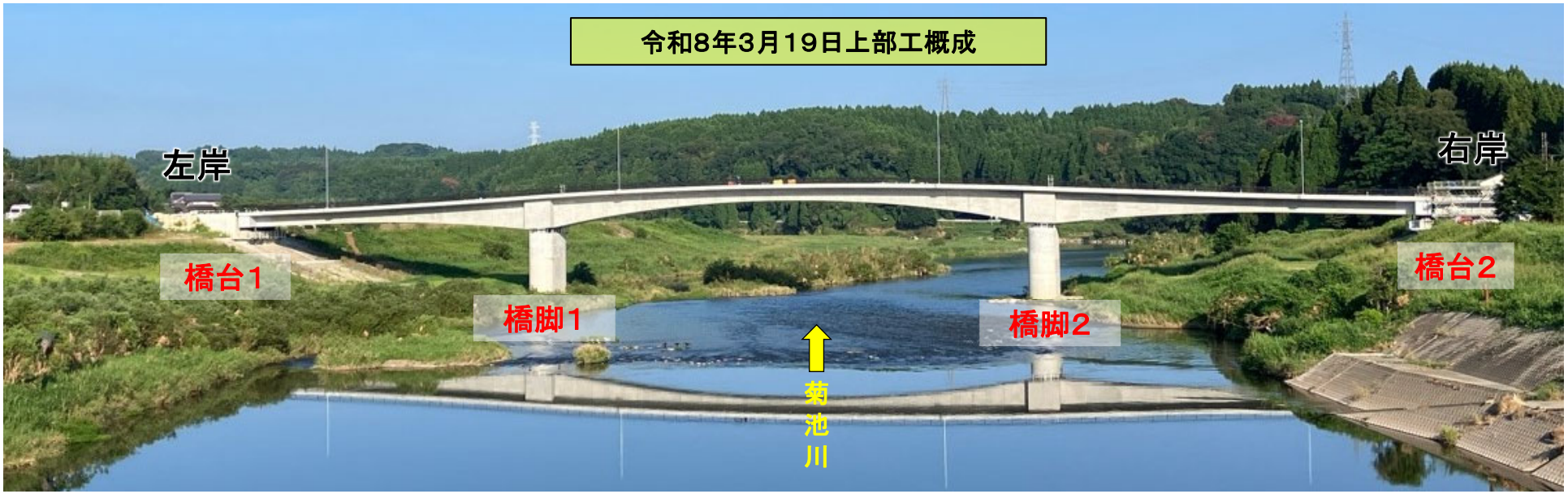

整備状況



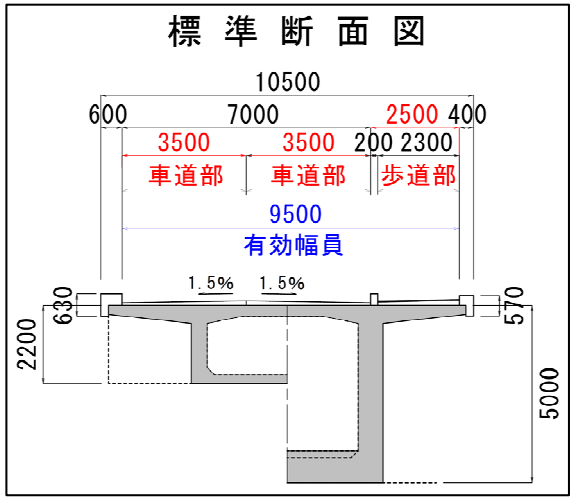

整備イメージ



# 4）河川整備の進捗・実施状況＜橋梁架替（菊池川中流部　菰田地区）2/2＞




上流側から下流側を望む(R8.7.31撮影)







橋面上の施工状況
（左岸側から右岸側を望む（R8.8.4撮影）

＜菰田橋上部工橋面お絵描きイベント＞
日時：令和8年6月16日（火）　9：50～11：40
参加者：和水町町立菊水小学校　：3年生児童38名
和水町町立三加和小学校：6年生児童26名

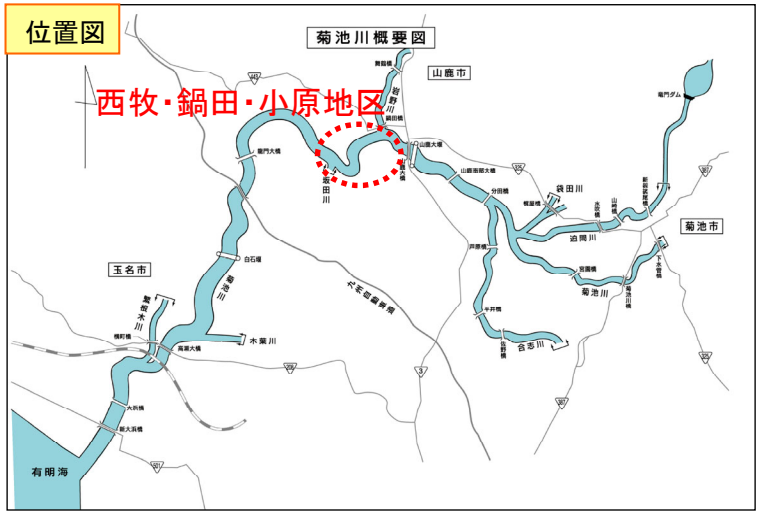



記　念　写　真
【左側：菊水小（ひまわり）、右側：三加和小（虹）】

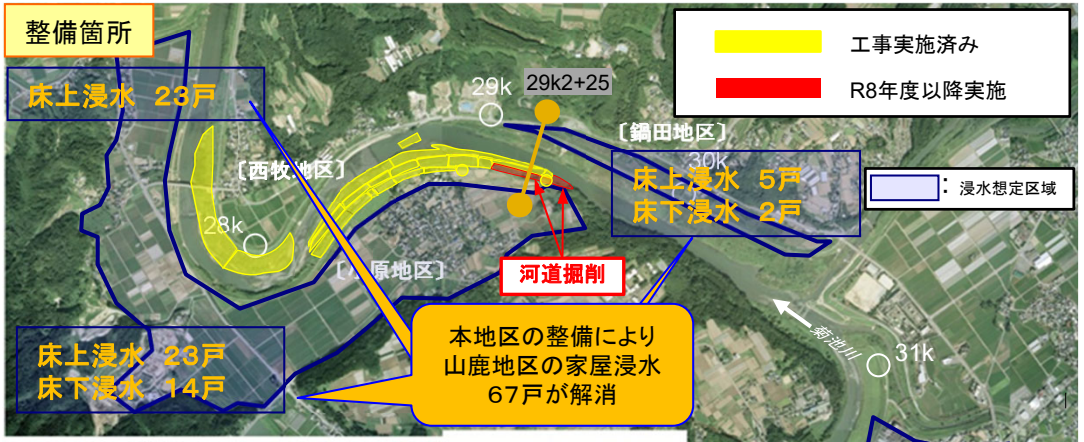
# 4）河川整備の進捗・実施状況＜河道掘削（菊池川中流部　西牧・鍋田・小原地区）＞

〇流下能力向上のため、河道掘削を実施している。
〇令和8年度以降も引き続き、小原地区における河道掘削（旧堤撤去）を実施予定。

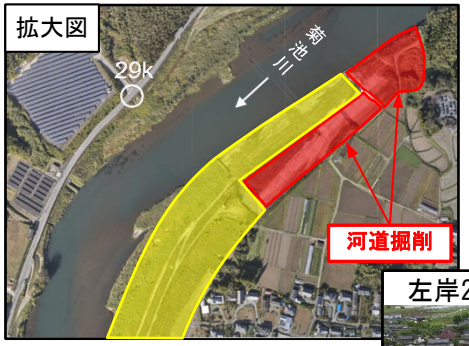
位置図




整備箇所



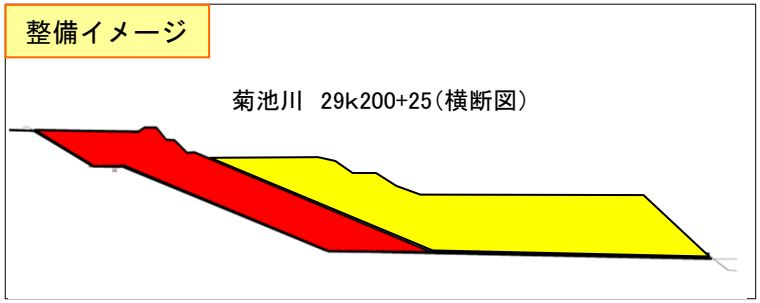

整備状況







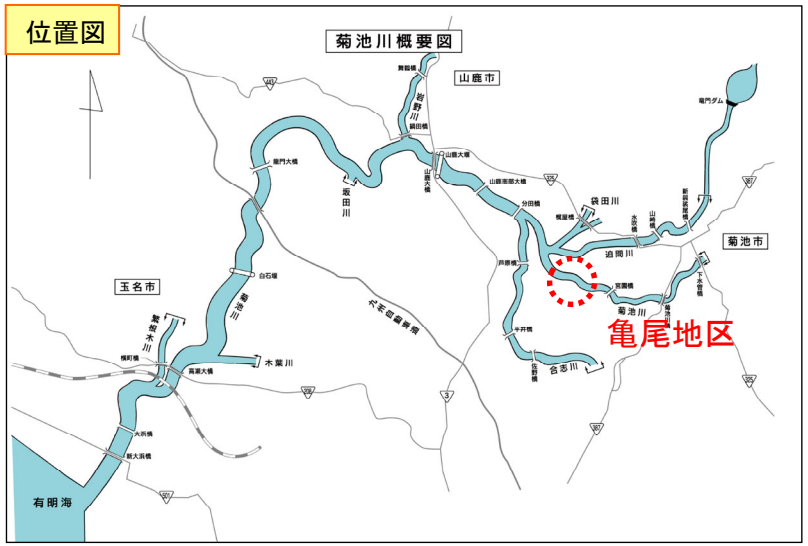
整備イメージ



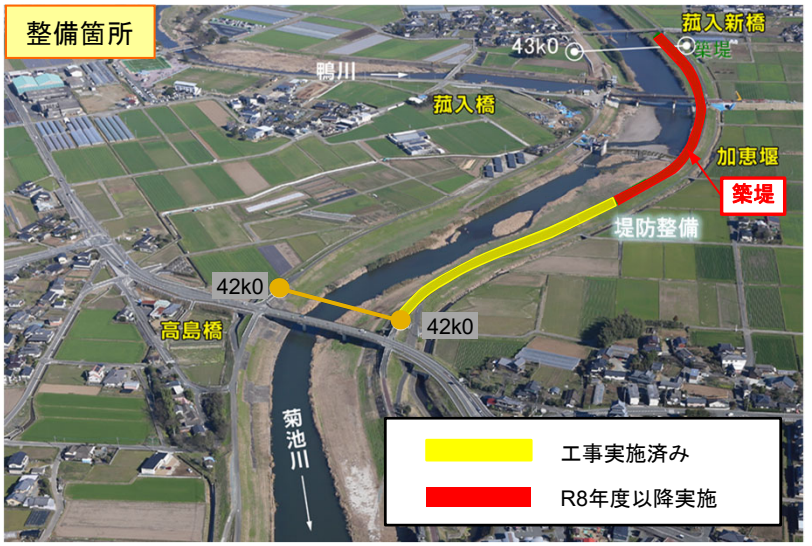
# 4）河川整備の進捗・実施状況＜築堤（亀尾地区）＞

〇堤防の幅が不足しており、洪水に対しての安全性が確保されていないため、堤防整備を実施している。
〇令和8年度以降も引き続き、築堤を実施予定。

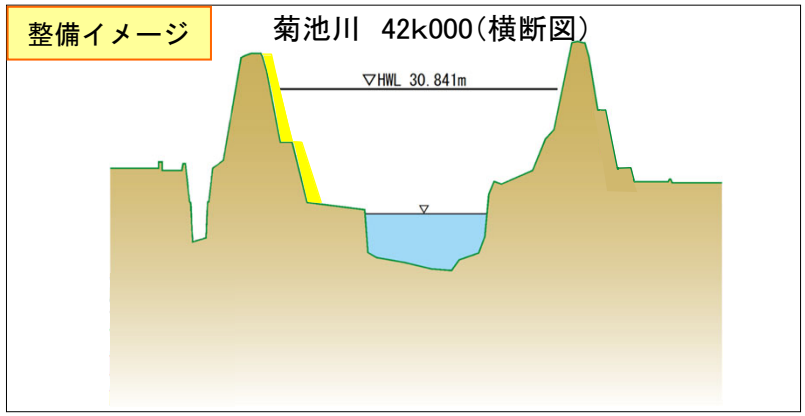
位置図



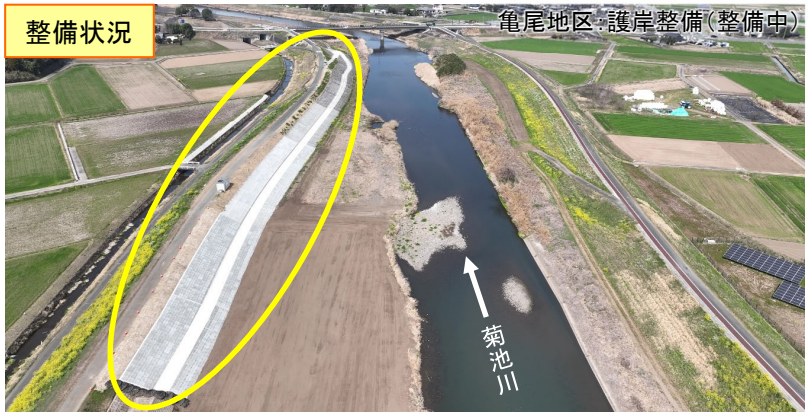

整備箇所




整備イメージ



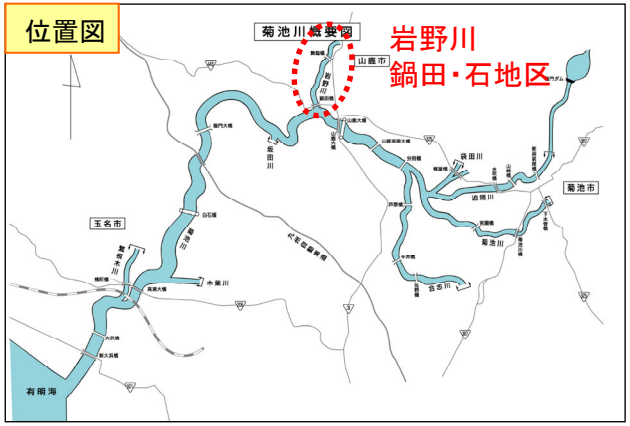

整備状況



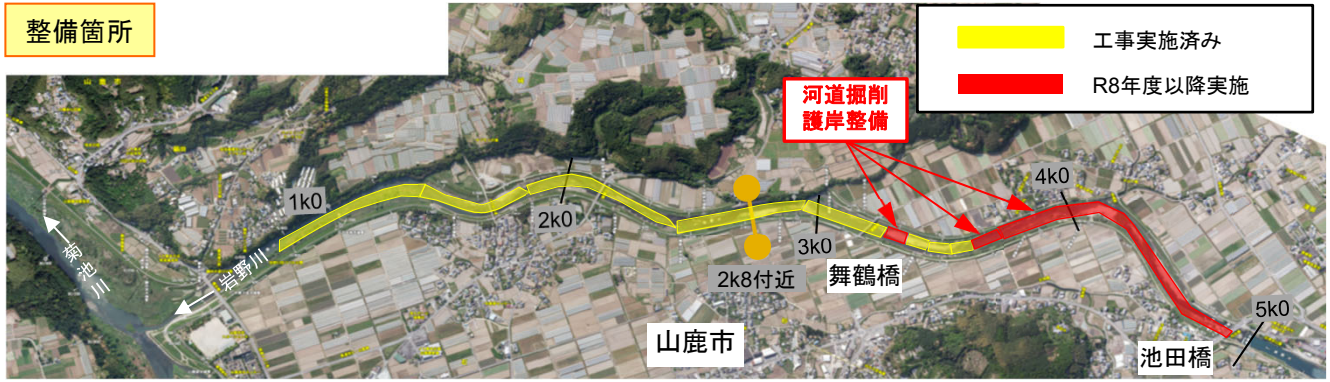
# 4）河川整備の進捗・実施状況＜河道掘削等（岩野川　鍋田・石地区）＞

〇流下能力向上のため河道掘削を実施している。
〇河道掘削に際しては、動植物の生息・生育・繁殖環境に配慮し、ワンド・たまり等を整備し、継続してモニタリングを実施している。
〇令和8年度以降も引き続き、河道掘削、護岸整備を実施予定。

位置図

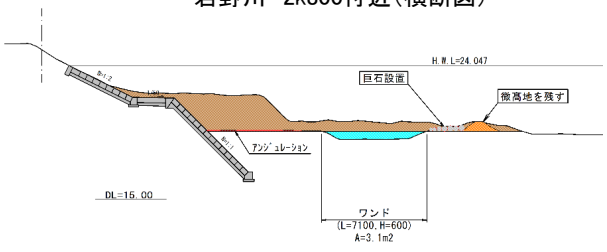



整備箇所

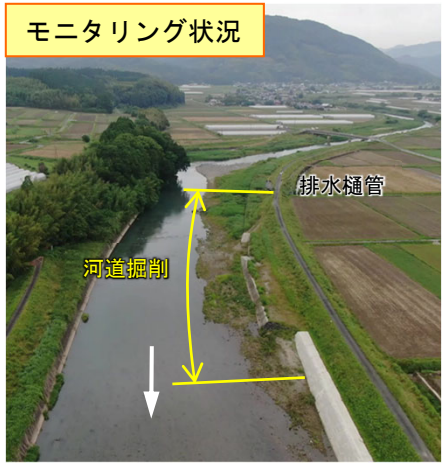



整備イメージ

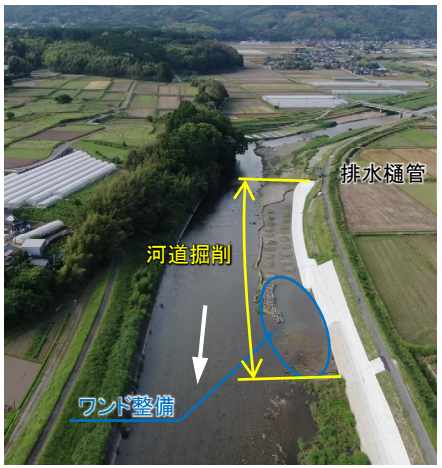
岩野川　2k800付近（横断図）




モニタリング状況




河道掘削前（R3．５）




河道掘削完了後（R4．5）

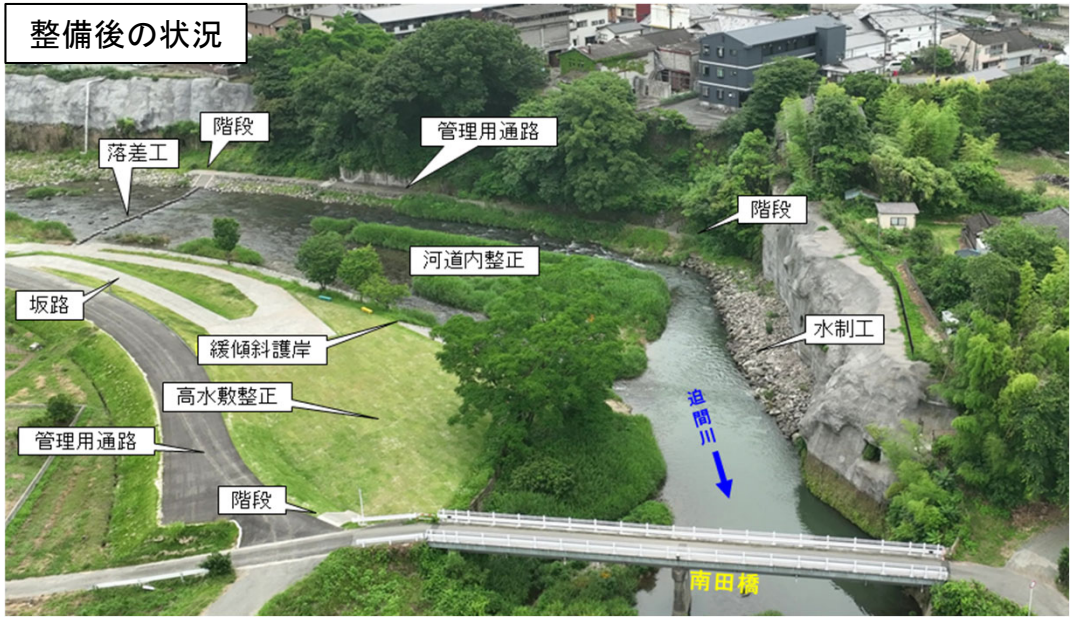



河道掘削から3年後（R7．11）

## 4）河川整備の進捗・実施状況＜かわまちづくり（菊池市）＞

〇菊池川水系迫間川隈府・玉祥寺地区において、平成31年3月に「菊池市かわまちづくり」として計画登録。
〇かわまちづくりの登録は、菊池川水系および菊池川河川事務所管内において、3箇所目の登録。
〇地域住民・学識者・菊池市・河川管理者等が知恵を出し合い、まちなかの自然資源である迫間川周辺地域の一体的な活性化と、河川利用者の安全性の向上、河川巡視や河川管理の円滑化を図るため、緩傾斜護岸および管理用通路等を令和5年度までに整備完了した。
〇令和7年度 第4回「川びらき」では公園、広場名称の命名式を実施。令和8年度も7月25日に開催。
〇令和8年度は、引き続き整備後の利活用状況調査を行う。

整備後の状況




整備後の利用状況







第5回「川びらき」【R8.7.25 開催】



## 4）河川整備の進捗・実施状況＜河川の維持管理＞

○河川の堤防や河川管理施設等を健全に保つため、堤防の除草、施設の補修、施設の操作、河川巡視、堰管理、堆積土砂掘削及び樹木伐採などを行う。
○堤防や、堰・樋門・樋管などの施設が適切に機能発揮できるよう日頃から河川パトロールや点検、補修等を行う。

堤防除草



河川巡視



堤防点検



堤防補修



護岸補修及び無動力化（施工前）



護岸補修及び無動力化（施工後）



## 4）河川整備の進捗・実施状況＜河川空間の利用＞

○河川空間を活用したイベントや小学校等との環境学習の場など継続的な利用が行われている。

平成14年より流域の小学校を対象に毎年「菊池川流域体験学習等」を開催している。



流域体験学習（R7.7.23）



水生生物調査（R8.8.2）



竜門ダムの見学（R7.9.13）



菊池市かわびらき（R8.7.25）



竜門ダムレガッタ（R8.6.21）



竜門ダムフェスタ（R7.9.13）

## 4）河川整備の進捗・実施状況＜地域との連携＞

○流域内の地域連携・地域活性化を図ることを目的として「菊池川流域連携会議」を結成し、川の清掃活動、カヌーやSUP体験、生物観察学習会、シンポジウム、ロープレスキューの実施、定期的な連携会議（役員会・総会）の開催・運営などの活動を実施している。



川の清掃活動（ブラジルチドメグサ駆除）



河川調査



菊池川自然塾（生物観察学習会）



菊池川あそび（SUP体験）

# 4）河川整備の進捗・実施状況＜河川情報の共有化＞

## 出水期前の合同巡視

●参加機関
・国、県、市町水防担当者、市町水防団等

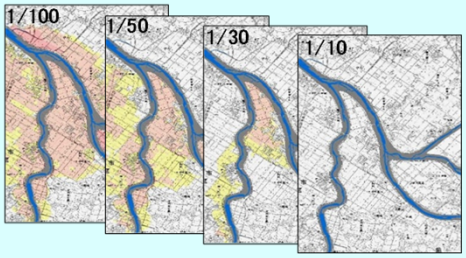




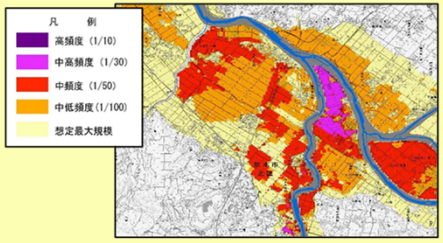


## 多段階の浸水想定図及び水害リスクマップ（令和8年3月公表）

【多段階の浸水想定図】
想定最大規模に加え、高頻度から中頻度で発生する降雨規模毎（1/10、1/30、1/50、河川整備の計画規模（1/100））も作成した浸水想定図。




【水害リスクマップ】
多段階の浸水想定図を用いて、降雨規模毎の浸水範囲を浸水深3パターン（0cm以上、50cm以上（床上浸水）、3m以上（1階居室浸水））に重ね合わせて作成した図面。




## 地元への防災啓発活動、防災学習





住民や関係自治体に「防災まち歩き地域ワーキング」を実施





小学生などに浸水ドアや液状化の体験型出前講座を実施





福祉施設や小学校で防災に関する市民講座を実施

## 5）河川整備計画の点検＜結果＞

**平成23年9月　菊池川水系河川整備計画　策定**

**令和4年11月　河川整備計画内容の点検・事業再評価（第3回）**

河川整備の実施

**令和8年8月　河川整備計画内容の点検・事業再評価（第4回）**

### 社会情勢の変化

■流域内の人口、土地利用、大きな変化はなく、河川改修の必要性は変わらない。

■菊池川水系では、平成24年7月出水以後、河川整備が進んだこともあり、近年では大きな洪水被害は発生していないが、依然治水安全度が低い状況にある。

■気候変動のスピードに対応した新たな水災害対策として、河川整備を加速することに加え、流域全体で、国・県・市町、地元企業や住民などが協働して取り組み「流域治水」による治水対策が求められている。

### 河川整備の進捗・実施状況

■河川改修事業及び環境整備事業を継続して実施中。

■河道や河川管理施設、河川空間の適正な維持管理を実施中。

■環境学習、河川情報の共有化等、関係機関と連携し地域とのコミュニケーションを推進。

■菊池川流域治水協議会及び、水害に強いまちづくりや地域防災力の強化などの流域対策と河川整備を組み合わせた菊池川水系流域治水プロジェクトを更新し、流域治水の取り組みを継続する。

**【点検結果】（案）**

**○引き続き現整備計画に基づき、河川整備を実施する**

**○併せて、気候変動を考慮した河川整備基本方針、河川整備計画の策定に向けた検討を行う**